

よいよい生き方を主体的に探求する  
児童生徒を育成するために

学校の日常活動

と

地域社会と連携した体験活動

から進める

志教育

～資料集～

宮城県教育研修センター

平成24年度教育相談・生徒指導研究グループ

|            |  |           |
|------------|--|-----------|
| <b>I</b>   | <b>小・中・高等学校における「志教育」ではぐくみたい姿</b>               | <b>1</b>  |
| <b>II</b>  | <b>小・中・高等学校の12年間で身に付けさせたい態度一覧</b>              | <b>2</b>  |
|            | 1 小学校6年間                                       | 2         |
|            | 2 中学校3年間                                       | 4         |
|            | 3 高等学校3年間                                      | 5         |
| <b>III</b> | <b>基本システムを活用した「学校の日常活動」マニュアル</b>               | <b>6</b>  |
|            | 1 ステップ1 アセスメント                                 | 6         |
|            | 1 実態把握の方法                                      |           |
|            | 2 指導方針の決定                                      |           |
|            | 2 ステップ2 セットアップ                                 | 8         |
|            | 1 学級組織の見直し(小・中学校)                              |           |
|            | 2 学級組織の見直し(高等学校)                               |           |
|            | 3 ガイダンス機能の充実                                   |           |
|            | 3 ステップ3 指導・支援                                  | 15        |
|            | 1 小集団会議の実施                                     |           |
|            | 2 児童生徒の実践への支援                                  |           |
|            | 4 ステップ4 評価・改善                                  | 16        |
| <b>IV</b>  | <b>基本システムを活用した「地域社会と連携した体験活動」マニュアル</b>         | <b>17</b> |
|            | 1 ステップ1 アセスメント                                 | 17        |
|            | 1 実態把握の方法                                      |           |
|            | 2 指導方針の決定                                      |           |
|            | 2 ステップ2 セットアップ                                 | 18        |
|            | 1 体験活動の組織の見直し                                  |           |
|            | 2 ガイダンス機能の充実                                   |           |
|            | 3 ステップ3 指導・支援                                  | 19        |
|            | 4 ステップ4 評価・改善                                  | 19        |
| <b>V</b>   | <b>「学校の日常活動」と「地域社会と連携した体験活動」を相互に関連付けた実践モデル</b> | <b>20</b> |
|            | 1 小学校編   | 20        |
|            | 2 中学校編   | 22        |
|            | 3 高等学校編  | 23        |
|            | 4 委員会・部活動編                                     | 24        |
| <b>VI</b>  | <b>係会議実践資料</b>                                 | <b>25</b> |
|            | 1 学習指導案  | 25        |
|            | 2 班活動実践資料                                      | 32        |
|            | 3 係活動実践資料                                      | 36        |

# 小・中・高等学校における 「志教育」ではぐくみたい姿

| 視点             | 小学校  | 中学校   | 高等学校  |
|----------------|--|---|---|
| 人と「かかわる」       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○家族や友達等身近な人々と接しながら、あいさつや返事をし、自分の気持ちを伝えることができる。</li> <li>○友達と協力する中で、互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりすることができる。</li> <li>○様々な集団の中で自己を生かすことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のよさや適性を自覚するとともに、他者を理解し、尊重することができる。</li> <li>○人間関係の大切さを理解し、周囲に配慮しながら、よりよい関係を築くことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者の価値観や個性を理解するとともに、自己理解を深めることができる。</li> <li>○様々な人と、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。</li> </ul>           |
| よりよい生き方を「もつめる」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組む。</li> <li>○将来の夢や希望を持ち、学習や体験活動に取り組む。</li> <li>○夢や目標をもち、将来の生活や仕事について、学習や体験活動を通して考える。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標や計画を立てたり、成果を自己評価する等、主体的な学び方を身に付ける。</li> <li>○将来の職業と学習との関わりを理解し、学習や体験活動に取り組む。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生きがい、やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。</li> <li>○将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、学習や体験活動に全力で取り組む。</li> </ul> |
| 社会の中で役割を「はたす」  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動等に関心をもって取り組む。</li> <li>○係活動の必要性が分かり、自分の仕事に積極的に取り組む。</li> <li>○自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験する。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団や社会の一員としての役割と責任を自覚することができる。</li> <li>○学校生活や地域の中で自己の役割や責任を果たすことで、自信をもつことができる。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や社会において自分の果たすべき役割を自覚し、責任を果たすことができる。</li> <li>○社会の中でより価値の高い生き方、自己を生かす生き方について考えを深める。</li> </ul>     |

## 『学校の日常活動』と『地域社会と連携した体験活動』

|            | 志教育で<br>はぐくみたい姿  | 学校の日常活動<br>で身に付けたい態度  | 地域社会と連携した体験活動<br>で身に付けたい態度   | 実践モデルで身に付けたい態度  |
|------------|--|---|--|---|
| 小学校<br>1年生 | <p>○家族や友達等身近な人々と接しながらあいさつや返事をし、自分の気持ちを伝えることができる。<br/>【かかわる】</p> <p>○自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組む。<br/>【もとめる】</p> <p>○家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動等に関心をもって取り組む。<br/>【はたす】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に進んであいさつをする。</li> <li>・自分でできることを増やす。</li> <li>・自分の役割に楽しんで取り組む。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生や上級生と触れ合い、学校生活への意欲を高める。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がっこうたんけん</li> <li>・お手伝い大作戦</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の一員としての意識をもち、進んであいさつや手伝いをする。</li> </ul>         |
| 小学校<br>2年生 | <p>○家族や友達等身近な人々と接しながらあいさつや返事をし、自分の気持ちを伝えることができる。<br/>【かかわる】</p> <p>○自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組む。<br/>【もとめる】</p> <p>○家庭での手伝いや学級の係活動・清掃活動等に関心をもって取り組む。<br/>【はたす】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人にすすんであいさつし、友達と助け合って活動する。</li> <li>・自分が得意なことが分かり、進んで活動する。</li> <li>・自分の役割がみんなの役に立っていることを感じ取る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人や自然と触れ合い、町のよさに気づく。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちたんけん</li> <li>・昔遊びをしよう</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一員としての意識をもち、進んであいさつをし、関心をもって手伝いをする。</li> </ul> |
| 小学校<br>3年生 | <p>○友達と協力する中で、互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりすることができる。<br/>【かかわる】</p> <p>○将来の夢や希望をもち、学習や体験活動に取り組む。<br/>【もとめる】</p> <p>○係活動の必要性が分かり、自分の仕事に積極的に取り組む。<br/>【はたす】</p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して活動し、友達のよさに気づく。</li> <li>・学級生活を楽しくするための方法を考える。</li> <li>・自分の役割に積極的に取り組む。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小さい子に思いやりの心をもって接し、役に立つ喜びを感じ取る。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園児との交流</li> <li>・梨づくりを知ろう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさを知り、身近な小さい子へのお世話を進んで行おうとする。</li> </ul>       |

# 「学校の日常活動」と「地域社会と連携した体験活動」

|            | 志教育で<br>はぐくみたい姿   | 学校の日常活動<br>で身に付けたい態度  | 地域社会と連携した体験活動<br>で身に付けたい態度   | 実践モデルで身に付けたい態度   |
|------------|---|---|--|--|
| 小学校<br>4年生 | <p>○友達と協力する中で、互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりすることができる。</p> <p>【かかわる】</p> <p>○将来の夢や希望をもち、学習や体験活動に取り組む。</p> <p>【もとめる】</p> <p>○係活動の必要性が分かり、自分の仕事に積極的に取り組む。</p> <p>【はたす】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・認め合い、励まし合いながら、協力して活動する。</li> <li>・学級生活をよくするために必要なことを考える。</li> <li>・自己の役割の必要性を考え、積極的に仕事に取り組む。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には様々な人が暮らしていることを知り、共によい地域にしていこうという思いをもつ。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャップハンディ体験</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一員としての自覚をもち、地域の行事等に進んで参加しようとする。</li> </ul>    |
| 小学校<br>5年生 | <p>○様々な集団の中で自己を生かすことができる。</p> <p>【かかわる】</p> <p>○夢や目標をもち、将来の生活や仕事について、学習や体験活動を通して考える。</p> <p>【もとめる】</p> <p>○自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験する。</p> <p>【はたす】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを生かしながら、友達と協力して活動する。</li> <li>・学校生活をよりよくするために自分にできることを考える。</li> <li>・自分の役割に責任をもって取り組む。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で働く人の思いや苦勞を知り働くことへのあこがれをつ。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験学習</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への愛着をもち、地域の人々に感謝の気持ちをもって共に働こうとする。</li> </ul>   |
| 小学校<br>6年生 | <p>○様々な集団の中で自己を生かすことができる。</p> <p>【かかわる】</p> <p>○夢や目標をもち、将来の生活や仕事について、学習や体験活動を通して考える。</p> <p>【もとめる】</p> <p>○自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験する。</p> <p>【はたす】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを生かしながら、友達と協力して活動する。</li> <li>・学校生活の問題点に気付き、改善する方法を考える。</li> <li>・自分の役割に責任をもって取り組み、学校の役に立っていることを実感する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をよくするために自分たちにできることを考えて行動する。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア体験</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をよくしたいという願いをもち、自分にできることを積極的に行おうとする。</li> </ul> |

# 「学校の日常活動」と「地域社会と連携した体験活動」

|            | 志教育で<br>はぐくみたい姿  | 学校の日常活動<br>で身に付けたい態度   | 地域社会と連携した体験活動<br>で身に付けたい態度   | 実践モデルで身に付けたい態度   |
|------------|--|--|--|--|
| 中学校<br>1年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のよさや適性を自覚するとともに、他者を理解し尊重することができる。</li> </ul> <p>【かかわる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間関係の大切さを理解し、周囲に配慮しながらよりよい関係を築くことができる。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校までの育まれたものを土台に友達とのよりよい人間関係を築く。</li> <li>・目標や計画を立て、実行する。</li> <li>・中学校の一員としての自覚をもつ。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のできることを考え、計画を立て主体的に活動する。</li> <li>・社会の一員としての役割を自覚する。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設訪問</li> <li>・職場訪問</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなにとって生活しやすい社会について考え、よりよい人間関係を築こうとする。</li> <li>・地域について知り、働くことについて考え、学級や学校の中で自己の役割を果たそうとする。</li> </ul> |
| 中学校<br>2年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標や計画を立てたり、成果を自己評価する等、主体的な学び方を身に付ける。</li> </ul> <p>【かかわる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の職業と学習との関わりを理解し、学習や体験活動に取り組む。</li> </ul> <p>【もとめる】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲に配慮しながら、よりよい人間関係を築く。</li> <li>・目標や計画を立て、実行し、振り返ることでよりよい生き方を求めようとする。</li> <li>・中堅学年としての、自覚をもち行動する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業を意識し、集団や社会の中で自分のできることを考え、主体的に活動する。</li> <li>・社会の一員としての役割を自覚し、行動する。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・スタート・ウィーク</li> <li>・上級学校訪問</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来について、現実的に考え目標設定をし、自主的に行動する。</li> <li>・地域社会の一員であることを自覚し、地域行事に積極的に関わろうとする。</li> </ul>                  |
| 中学校<br>3年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団や社会の一員としての役割と責任を自覚することができる。</li> </ul> <p>【はたす】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活や地域の中で自己の役割や責任を果たすことで、自信をもつことができる。</li> </ul> <p>【はたす】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の大切さを理解し、周囲に配慮しながらよりよい関係を築く。</li> <li>・目標や計画を立て、主体的に行動する。</li> <li>・最高学年として自覚と責任を果たす。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業と学習との関わりを理解し、体験活動に取り組む。</li> <li>・地域の中で、自己の果たす役割について考え実行する。</li> </ul> <p>【体験活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会貢献活動</li> <li>・高校体験入学</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業への希望をもちながら、自己を生かす生活や進路選択をする。</li> <li>・地域社会のために、貢献できることを考え、実践する。</li> </ul>                       |

# 「学校の日常活動」と「地域社会と連携した体験活動」で身に付けたい態度

|             | 志教育で<br>はぐくみたい姿  | 学校の日常活動<br>で身に付けたい態度   | 地域社会と連携した体験活動<br>で身に付けたい態度   | 実践モデルで身に付けたい態度  |
|-------------|--|--|--|---|
| 高等学校<br>1年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者の価値観や個性を理解するとともに、自己理解を深めることができる。<br/>【かかわる】</li> <li>○様々な人と、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。<br/>【かかわる】</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解・他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。</li> <li>・高校生としての自覚をもち、自分の果たすべき役割を主体的に考え実行する。</li> <li>・将来の夢や目標を立て実行する。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は一つの社会という意識を高める。</li> <li>・職業観や勤労観を高め、将来への思いや学ぶ意義について考える。<br/>【体験活動例】</li> <li>・職業人インタビュー</li> <li>・地域清掃活動</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会のために、自分のよさを生かして積極的に貢献しようとする。</li> <li>・仕事の社会的役割や意義を理解し、自分の生き方について考える。</li> </ul>                    |
| 高等学校<br>2年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生きがい、やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考えることができる。<br/>【かかわる】</li> <li>○将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、学習や体験活動に全力で取り組む。<br/>【もとめる】</li> <li>○学校や社会において自分の果たすべき役割を自覚し、責任を果たすことができる。<br/>【もとめる】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じた適切な言動をとることで、よりよい人間関係を築く。</li> <li>・学校の一員としての自覚をもち、責任をもって自己の役割を果たす。</li> <li>・学校生活において、生きがいややりがいを求めて主体的に活動する。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なりたい職業や夢のために必要なことを分析し、それに対応した学習や活動に積極的に取り組む。</li> <li>・豊かな人間関係を築き、社会性や職業観・勤労観を高め、集団や社会の中で果たすべき役割を考える。<br/>【体験活動例】</li> <li>・インターンシップ</li> <li>・マナー講習会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動の意義を理解し、活動に対してより主体的に取り組む。</li> <li>・新たな価値に気付き、より自己を高める生き方を目指す。</li> </ul>         |
| 高等学校<br>3年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の中でより価値の高い生き方、自己を生かす生き方について考えを深める。<br/>【はたす】</li> <li>【はたす】</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のリーダーとしての意識をもち、他者を尊重し協同的に活動する。</li> <li>・責任をもって自己の役割を果たしながら、社会の中でより価値の高い生き方をを目指す。</li> <li>・自分たちの学校生活をみつめ、よりよい生活のために主体的に活動する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、学習や体験活動に全力で取り組む。</li> <li>・地域社会の中で、果たすべき役割について考える。<br/>【体験活動例】</li> <li>・職業人講話</li> <li>・大学、職場見学</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の果たすべき役割を自覚し、地域や社会の中で自己を生かす生き方について考える。</li> <li>・将来の社会人としてのよりよい生き方について考え、主体的に学習や体験活動に取り組む。</li> </ul> |

# 基本システムを活用した 学校の日常活動

マニュアル

**小・中学校**

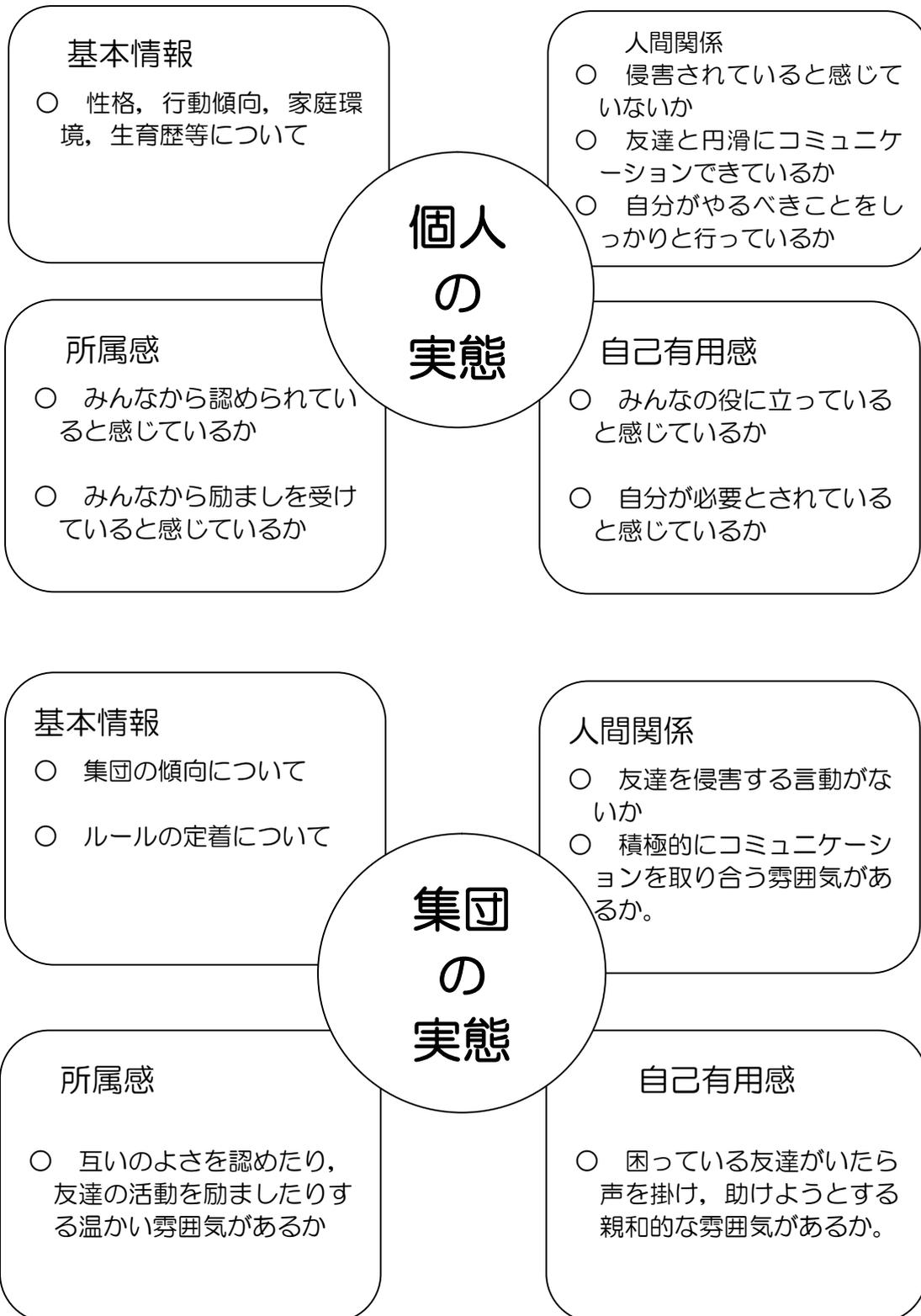
**(班・係活動編)**

**高等学校**

**(委員会・係活動・班活動編)**

## ステップ1 (1) 実態を把握しましょう

志教育を推進するために、一人一人の個人と学級集団の実態を把握しましょう。班や係活動から志教育を推進するためには、以下の観点で実態を押さえておくことが大切です。



## ステップ1 (2) 指導方針を決定しましょう

### 1 個人への指導方針

#### ① 家庭環境に問題がある

個人に対して直接支援を行うとともに、家庭へのサポートが必要です。学校の支援体制を整えつつ、関係機関と連携を取って支援していくとよいでしょう。

#### ② 個人に特別な支援を要する課題がある

性格や社会性などの個人的問題、発達障害には、個に応じた支援を考える必要があります。また、教師からだけでなく、友達同士でも支援できるような体制を整える必要があります。そのために、友達支援の中心的存在となるリーダーの育成と周りのサポート体制を作りましょう。

#### ③ 人間関係に問題がある

冷やかしかからかい、暴力行為等の侵害的な行為がある場合は、学校での体制を整え、組織的に対応しましょう。

| トラブルを起こしやすい子<br>被害者意識の強い子   | 活動への意欲が低い子<br>引っ込み思案な子  | 普通と思われる子の中にも   |
|---|---|--|
| 対人関係の調整に個別の配慮を要します。<br>ソーシャルスキルトレーニング等を活用しながら自分の気持ちの理解や気持ちのコントロールができるよう支援しましょう。 | 友達との関わりを広げ、我慢しすぎないように配慮します。<br>与えられた役割を果たせたことや上手にできたことを積極的に賞賛し、活躍の場を広げるよう支援しましょう。 | 我慢できない、感情表現に乏しい等学級での生活に支障をきたすおそれがあります。<br>機を捉えて声をかけ、よい行動ができたことを賞賛したり、自分の気持ちを理解させたりします。 |

### 2 集団への指導方針

個への支援だけでなく、学級全体に対しても人間関係を円滑にするためのトレーニングを取り入れましょう。

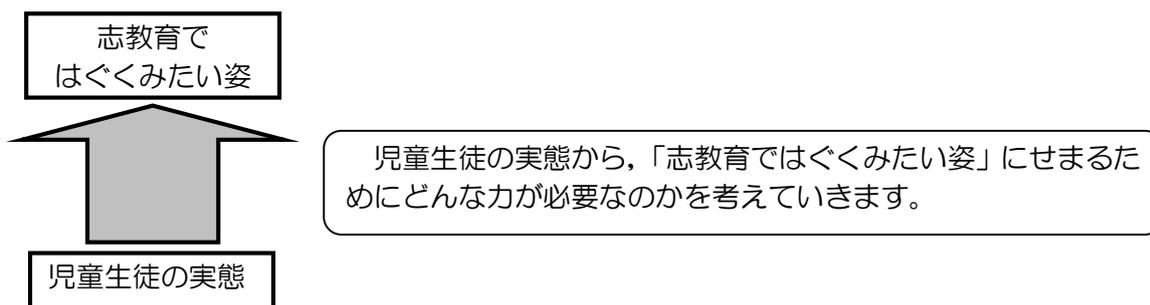
その上で、学校の日常活動（班・係活動）を実践していきます。基本システムを活用した学校の日常活動では、

- ① 役割を果たしながら他者と関わる人間関係づくりの工夫【はたす】【かかわる】
- ② よりよい生活やよりよい生き方を求めさせ、主体的な活動を促すための工夫【もとめる】

を行い、望ましい人間関係の構築と同時に所属感や自己有用感を高めていきます。リーダーを中心とした班活動・係活動を通して、自分たちでよりよい生活をつくっていかうという意欲を育てながら児童生徒の主体的な活動を目指しましょう。

また、常に児童生徒の実態を見取りながら、学習や体験活動との関連を意識して学校の日常活動を向上させるよう働き掛けていきましょう。

発達段階に応じた「志教育ではぐくみたい姿」に近付くための指導方針を決定しましょう。



## ステップ2 (1) 学級の組織を見直しましょう(小・中学校)

班・係活動を活用して「志教育」を推進するために、主体的な活動とするための場と機会を整備しましょう。その際のポイントは、

- ① リーダーを中心とした、小集団での活動を基本とする。【かかわる】
- ② 一人一人に集団に寄与する自分に合った役割をもたせる。【はたす】
- ③ 活動を計画し、目標を設定する話合いの場を設定する。【もとめる】【かかわる】
- ④ 一人一人が役割を果たせるように、互いに協力しながら目標の達成に向けて活動する場を設定する。【はたす】【かかわる】【もとめる】
- ⑤ 互いに認め合い、賞賛し合う場を設定する。【かかわる】
- ⑥ 活動を振り返り、改善策を話し合う場を設定する。【もとめる】【かかわる】

の6点です。

右図は、小・中学校の班・係活動の例です。

上記6点のポイントを取り入れるよう学級組織の見直しをしました。

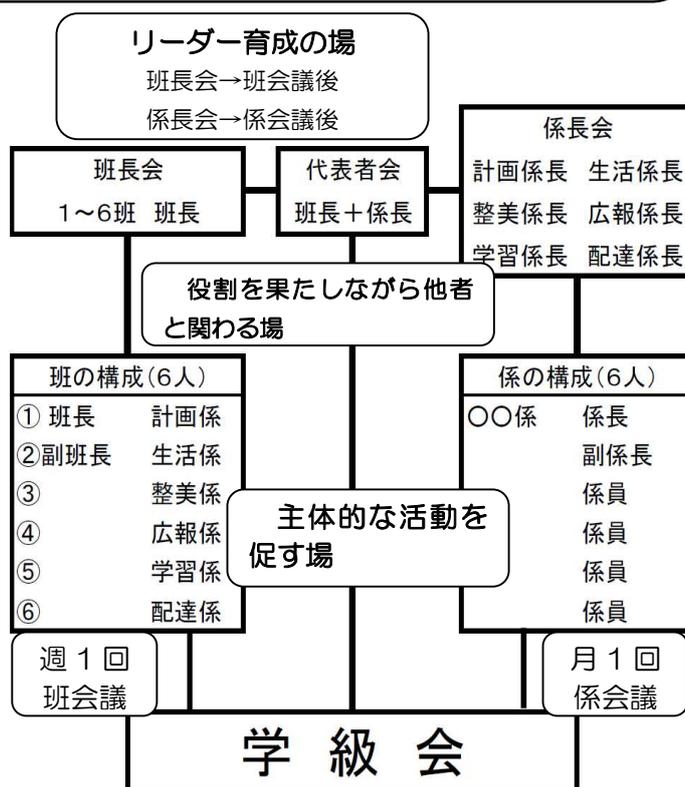
- ① 班長、係長をリーダーとした6人の小集団活動とします。
- ② 班は、各係から1名ずつ入るよう構成し、係に応じた役割を班の中で毎日果たさせます。

係は自分の特性や興味・関心を考えて選ばせ、週に1人1回学級のために果たす役割をもたせます。また、係毎輪番で週1回のミニ集会を受けもち、係らしい企画で「みんなを楽しませる」活動を行わせます。

- ③ 週1回の班会議、月1回の係会議を設定し、班・係目標の設定、ミニ集会の計画等を話し合う場とします。会は、放課後等の時間を使います。

- ④ 班の目標に向かって協同的に活動させる。班長・係長は小集団のリーダーとして、班長会、係長会の中で友達を支えるための心構えやスキルを身に付けさせる。また、一人一人の役割を明確にすることで、班の中でリーダーシップを取る機会を設定できます。例えば、生活係→給食リーダー、整美係→清掃リーダー、広報係→業前活動リーダー、学習係→朝の会リーダー、配達係→帰りの会リーダー、計画係→学校生活サポートリーダーという具合です。

- ⑤⑥ どちらも班会議、係会議の中で行います。無理なく進められるよう、内容を工夫しましょう。



### 明確な役割のポイント

学級には、誰かが受け持たなければ困る当番的な仕事があります。班の中で係に応じて当番的な仕事を振り分けることで、みんなが平等に役割を受けもてるようにします。班の中に毎日行う仕事があることが大切です。例えば生活係は給食時の机ふき、整美係は、掃除の反省会の司会という具合です。

週1回の学級のための役割は、係で分担させます。生活係なら食事のあいさつ、整美係なら掃除用具の点検、学習係なら時間割の連絡などが考えられます。

これまで日直任せにしてきた当番的な仕事を見直し、各班で分担させることで、毎日役割を果たしながら学級や班のメンバーと関わる機会をより増やすことができます。

## ステップ2 (1) 学級の組織を見直しましょう (高等学校)

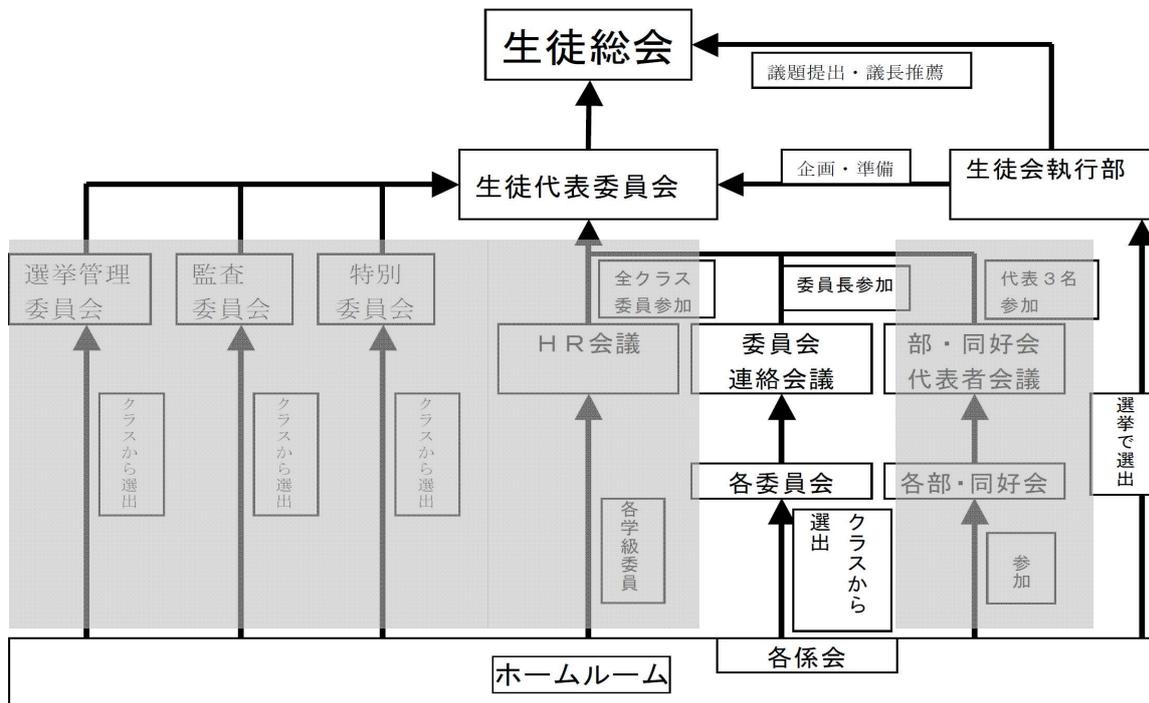
高等学校においては、既存の生徒会組織を活用し、ホームルームの係活動と委員会を連携させた組織をつくります。具体的には、生徒全員がホームルーム内で各委員会のいずれかの仕事を係として担うことができるよう組織し、委員は、ホームルームの各係の代表として選出します。ステップ1でのアセスメントを基に、各係がそれぞれの班に1名以上ずつ入るように組織し、班組織の編成にあたっては、自薦・他薦等によってリーダーを選出して、リーダーを中心に主体的に組織編成を行います。その際、特別な支援を必要とする生徒をサポートできるようにトレーニングを行いながら生徒に組織づくりを行わせることも大切です。班という小集団の組織を編成することで、リーダーの育成が期待でき、また、授業においてグループ活動を行う際にも活用できると考えました。班の人数に関しては、活動に応じて変更し、共同的に学習を進める場合には、4人程度が適しています。

以下に、生徒会組織全体図、係、委員会組織の連携、委員会、ホームルーム組織の連携図の例を示します。

### ○生徒会組織全体図

本研究では、生徒会組織全体図において、ホームルームの中にある係活動と委員会活動との関連を示しました。ホームルーム組織の中に係を編成し、各係から各委員会のメンバーを選出します。委員のメンバーには、クラスの代表であることを意識させ、係のメンバーと連携して活動していきます。

定期的に委員会連絡会議を開催し、各委員長から活動状況の報告や行事計画についての協議を行うなど、生徒会活動をより主体的な取組につなげます。



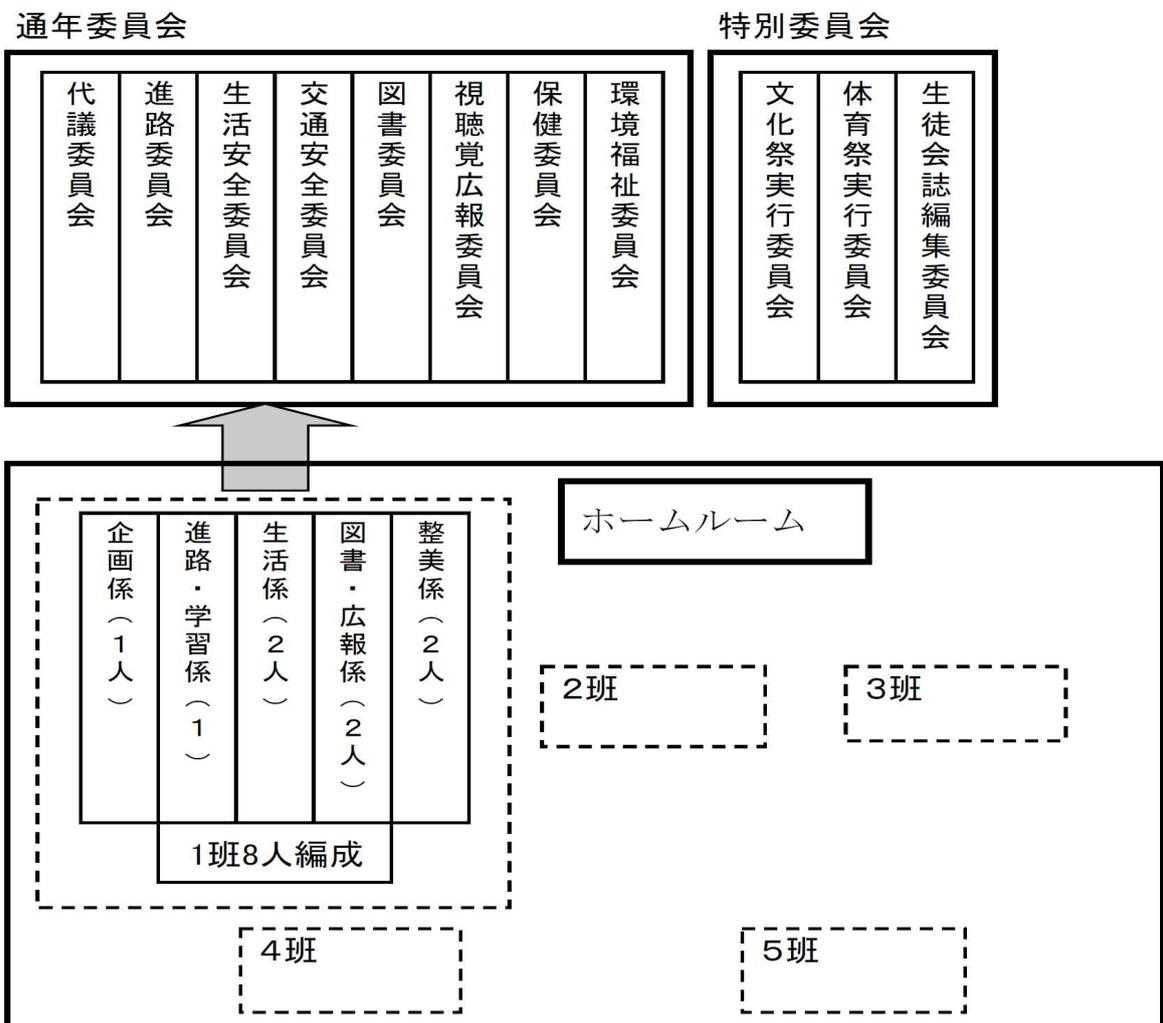
○係・委員会組織の連携（例）

教師は生徒会活動において、全校生徒が生徒会組織の一員であることを自覚させ、学校生活をよりよくしようと主体的に活動できるよう、指導・支援していくことが大切です。高等学校における学校の日常活動では、ホームルームの中に係（企画係、進路係、生活係、図書・広報係、整美係）を編成します。全クラスが同じ係を編成し、その中から委員会のメンバーを選出していきます。各係の活動内容は、クラス独自の活動に加え、各委員会との連携を図った活動内容に取り組んでいきます。全校生徒が個々の役割を果たしながら他者と関わり、よりよい学校・学級を目指して主体的に活動していく場として、係と委員会を関連付けた例を以下に示します。

| 係           | 委員会               | 活動内容  |
|-------------|-------------------|---|
| 企画係（5名）     | 生徒会執行部役員<br>（1名）  | 学校・学年行事の企画・運営<br>班目標の確認   |
|             | 代議委員会（2名）         |   |
|             | 文化祭実行委員<br>（2名）   | 文化祭の企画・運営   |
| 進路・学習係（5名）  | 進路委員会（2名）         | 職業人インタビュー・職場体験の企画<br>進路通信作成<br>各種調査の集計<br>進路関係書類整理<br>各授業の連絡<br>定期試験・検定試験対策プリント作成 |
| 生活係（10名）    | 生活安全委員会<br>（2名）   | あいさつ運動・バス停点検<br>校内見回り・身だしなみ点検<br>校内危険箇所の点検、防災避難訓練企画                               |
|             | 交通安全委員会<br>（2名）   |   |
|             | 体育祭実行委員会<br>（2名）  | 体育祭の企画・運営   |
| 図書・広報係（10名） | 図書委員会（2名）         | 図書室管理<br>読書啓蒙活動   |
|             | 視聴覚広報委員会<br>（2名）  | 学校・学年・クラス通信作成<br>校舎・クラス掲示物管理<br>校内放送（朝・昼の放送企画・運営）                                 |
|             | 生徒会誌編集委員会<br>（2名） | 生徒会誌企画・編集   |
| 整美係（10名）    | 保健委員会（2名）         | 健康観察<br>調査・研究<br>講習会の企画・運営  |
|             | 環境福祉委員会<br>（2名）   | 清掃道具管理、ロッカー点検<br>ボランティア活動企画・運営<br>校内外美化活動（清掃活動・花壇植栽など）                            |

○委員会，ホームルーム組織の連携図

本研究を進めていく視点として大切にしている，役割を果たしながら他者と関わる人間関係づくりの工夫を実践する場として，ホームルーム組織の中に班を編成します。班組織を編成して係活動や委員活動などを行っている高等学校は，あまり多くはないと思いますが，小集団で様々な活動を行うことで，他のメンバーとのコミュニケーションを取りながら活動する機会を，これまで以上に生み出すことができると考えました。また，このような班の人数を工夫することで，清掃活動や授業でのグループ学習などにも活用できます。協同的に委員会活動・係活動・学習活動を進めていくことは，豊かな人間関係を築く態度や基本的なことを習得するまで努力する態度を養うなどの効果も期待できるだけでなく，学力向上にもつながると考えます。ホームルームの中に班組織を編成することで，全体のリーダーには立候補できない生徒や，全体の場では発言できない生徒でも，小集団組織の中から社会性，主体性，責任感などを育むことができます。また，自己理解や他者理解を深化させる場所ともなるのではないのでしょうか。



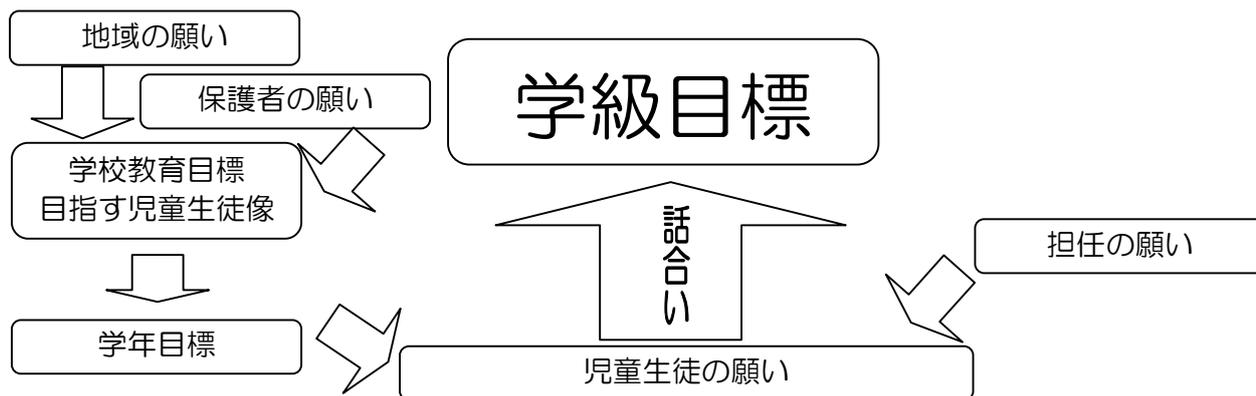
## ステップ2 (2) ガイダンス機能を充実させましょう①

活動の意義・目的を説明し、学級全体の目標を設定しましょう

学校の日常活動を児童生徒の主体的な活動とするためには、活動の意義・目的をつかませ、活動を通して目指すべき方向を説明し、活動への意欲を喚起する必要があります。

さらに、一人一人が自己実現を目指し、そのために互いに支え合おうとする態度を育てるために、学級目標を設定します。学級目標の達成を目指すことが、一人一人の自己実現につながるということになるということを意識付けましょう。

班会議や係会議での振り返りは、どの程度学級目標に近付けているかという観点で行います。自分たちが目指すべき姿をイメージさせるためにも学級集団全員で話し合い、考えを出し合いながら設定するとよいでしょう。



学級目標ができれば、学級目標に近づくために必要なことを具体的に挙げていきましょう。

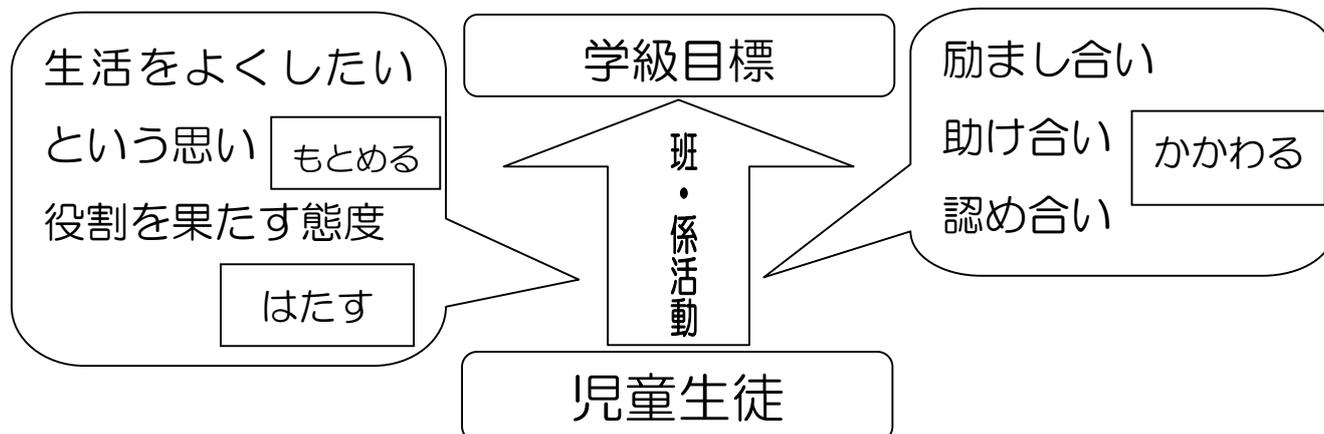
おそらく、「励まし合う」「助け合う」「認め合う」「仲良くする」「優しくする」「きまりを守る」等々児童生徒からは、いろいろなイメージが出てくると思います。学級目標を設定する段階で既にたくさん出されているかもしれませんね。

もうお分かりですね。学級目標に近づくことは、児童生徒が理想とする学校生活を求めることなのです。でも、1人でがんばっても学級はなかなかよくなりません。だから、みんなで役割を分担して少しでも生活がよくなるようにと協力することが大切なのです。難しく考えず、自分の特性や興味・関心を生かして、学級のために貢献しようという態度を育てていきましょう。

だから、班の中でも役割分担をして1人1人が班のみんなのために必ず働かし、1人1人が学級のために必ず役割を果たす必要があるという意義を伝えましょう。

また、人間、得意なこともあれば、苦手なこともあります。忘れっぽい人もいれば、飽きっぽい人もいます。だから、班のみんなで声を掛け合って励ましたり、仕事を手伝ったりする必要のあることを理解させましょう。

そうすれば、班活動や係活動は、学級目標を達成するためにするのだという目的が生まれるはずです。まずは、意欲。「よし、やるぞ!」という気持ちにさせること。ここは、担任の腕の見せ所です。



## ステップ2 (2) ガイダンス機能を充実させましょう②

### リーダーを育成しましょう

小集団での活動には、支え合う活動の中心的存在となるリーダーの育成が欠かせません。

では、リーダーにはどんな役割があり、どんな力が必要なのでしょう。リーダーとは言っても同級生の友達との関わりが中心となります。リーダーとしてやるべきことは、

- ① 班会議、係会議など話し合い活動の司会
- ② 班や係のメンバーのサポート

が主なものとなります。

望ましい人間関係を構築しながら、主体性を育てる本システムでは、話し合い活動による自己決定の場が重要となります。そのため、リーダーは発達段階や実態に応じて話し合いの進め方を身に付けさせていく必要があります。以下に例を示しますが、学級や学年等の実態に応じて工夫しましょう。

〈話し合いの仕方をリーダーに示す例〉

#### 意見のまとめ方

- ① 出された意見を確認・整理する。  
「～，～，～という意見が出ました。」
  - ② 出された意見に対するみんなの考えを聞く。(質問でもよい)  
「班のみんなでがんばる方法はどれがいいと思いますか。」  
※班のみんなが取り組むのに1番いい方法を選んでもらう。
  - ③ まとめます。※全員納得の場合はOK  
意見が割れたら・・・「今週はこれをしてみませんか。」(提案する) → 納得OK  
納得しない人がいたら・・・「今週はどんなことをがんばりたいですか。」(提案してもらう)  
「皆さんどうですか。」 → 納得OK  
納得しない人がいたら・・・「では、今週は賛成が多かった～をしてみます。うまく解決しなかったら来週～してみましよう。」  
班のみんなでがんばろうという気持ちを高めましよう。
- 心得1 班の友達の見解を大切にす。 (意見を大切にすことは、その人を大切にすこと)  
心得2 意見が出ないときは、「～さんはどう思いますか。」と聞いてみましよう。  
心得3 それでも意見が出ないときは、「わたしは～と思うのですがどうですか。」と提案してみましよう。  
心得4 自分だけががんばっても、班での話し合いはうまくいきません。メンバー全員が意見を出しているか。「～さんはどうですか。」と声をかけてみましよう。  
心得5 決めることが目的ではありません。みんなが実行できること、できない人がいたら班のメンバーでサポートしながらできるようにしてあげることが目的です。  
心得6 みんなは1人のために (不安な人や、困っている人がいたら班のみんなでサポート)  
心得7 1人はみんなのために (自分の役割を果たすことはみんなの役に立つことです)

メンバーのサポートのためには、人間関係を作るコミュニケーション技法等を少しずつ習得させていくことが大切です。まずは、リーダー同士が支え合う仲間となるよう留意しながら、

- ① 自己理解・他者理解
- ② 関わり技法
- ③ 傾聴技法
- ④ 質問技法
- ⑤ 感情に反映する技法
- ⑥ 問題解決の技法
- ⑦ 個人プランニング
- ⑧ 守秘義務と限界

等のトレーニングを行っていくとよいでしょう。

児童生徒の実態に応じて、ねらいにあったエクササイズを選択し、トレーニングの計画を立てて実施します。トレーニングは楽しく行い、指導者がモデルを演じてから児童生徒に体験させること、エクササイズ後は、新しい体験や感じたことを伝え合うことが大切です。

SGEやSST、ピア・サポートなどの参考図書から活用できるものを見つけて取り組みましよう。

## ステップ2 (2) ガイダンス機能を充実させましょう③

### 小集団での活動を活発にするためのトレーニングを行きましょう

班や係活動で、児童生徒の人間関係を構築しながら、主体的な態度を育てていくためには、班会議や係会議という小集団での話し合い活動が重要です。班会議や係会議は、提示している話し方・聞き方の約束を活用させる機会ともなります。また、話し合い活動は、意見が分かれたときの折り合いの付け方を学ぶ機会ともなります。発達段階に応じた話し方を示し、体験の積み重ねから身に付けさせていくこともねらっていきましょう。

また、折り合いを付けるためには、相手の考えや感情を理解しなければなりません。そこで、ソーシャルスキルトレーニングやSGE、MAP等、お互いをより理解したり、話し掛けやすしたりというトレーニングを取り入れることも有効な手だての1つです。

相手の感情を理解できない、仲間づくりが苦手など、主体的な活動の障壁となっていることを見極め、トレーニングを効果的に取り入れることで、自分たちで問題に気付いたり、その問題を解決したりしていく力をつけていけるでしょう。また、道徳の授業で獲得した価値との関連や国語での話し方、聞き方の学習など、日頃の学習での学びも随時学校の日常活動の中に取り入れたり、投げかけたりすることで、活動内容が向上し、学習と生活の関連を実感させる機会とすることができます。

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>MAP<br/>(みやぎアドベンチャー<br/>プログラム)</p> | <p>MAPは、課題解決型体験学習法の一つである「PA（プロジェクトアドベンチャー）」の考えを取り入れた宮城県独自の教育方法です。</p> <p>宮城県教育委員会では、仲間と協力して様々な課題を解決しながら他者を信頼し思いやる心を育てるPAの考え方や手法を、県内の小・中・高等学校の学校教育全体及び地域における児童生徒の諸活動に取り入れ、児童生徒の豊かな人間関係を構築し、学校不適應等の未然防止を図るとともに、児童生徒が未知の分野において自ら課題を見だし、考え、解決する力を育むことを目的として「MAP事業」を推進しています。</p>    |
| <p>構成的グループエンカウンター（SGE）</p>            | <p>エンカウンターとは、個々が本音を表現し合い、それを相互に認め合う体験のことです。</p> <p>エクササイズは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験という6つのねらいを満たすように用意されています。人間関係づくりの行動を学ぶ構成的グループエンカウンターは、人間関係づくりに関して、教育現場のニーズに対応できるエクササイズを豊富にもっています。</p>  |
| <p>ソーシャルスキルトレーニング（SST）</p>            | <p>困難な状況を、「ソーシャルスキル」と呼ばれるコミュニケーション技術で捉え、その技術を向上させることで、困難を解決しようとする技法です。</p> <p>ソーシャルスキルは、テーマを自由に選ぶことができ、トレーニングの方法も多彩です。基本的な流れは、「インストラクション→モデリング→リハーサル→フィードバック→定着化」となっています。</p>  |
| <p>アサーション</p>                         | <p>アサーションを日本語に訳すと「(自己)主張」となります。ここでの「主張」とは、自分勝手・攻撃的・策略的なものではありません。「アサーション」とは、自分の感じていることや気持ち、考えていることなどを、自分も相手も共に大切にしている関係の中で、誠実に率直に伝えていくこと。アサーティブとは、人に対して率直な対応をし、そのことで対等な人間関係を築いていくことです。</p> <p>相手の気持ちばかりを優先させてしまうコミュニケーションの方法を見直し、自分の人生を自分でつくっているという感覚や、自分自身の中の力に気づかせていきます。</p> |

## ステップ3 (1) 小集団会議を開きましょう

小集団会議では、リーダーを中心に話し合い、目標設定と活動の振り返り、改善策の検討を行います。班会議は週1回、係会議は月1回定期的に行うことが大切です。

話し合いを円滑にするためには、役割分担が重要です。リーダーは司会、副リーダーは記録、他は発表を分担するなど1人1人が役割を自覚することで、話し合いが活発になります。真剣な話し合いは、活動への意欲となり、自分たちで気付いた問題点を、自分たちで解決していくという態度につながります。

ここでの支援は、基本的には見守ること。その分、リーダーに頑張ってもらいます。決まった目標が具体的に行動できるか、自分たちで評価できるか等を見取り、再考を促します。自分たちで決めることが大切なのです。同時に、頑張っている児童生徒を見取り、後で具体的にどんな点がよかったのかを伝えられるようにしましょう。

### 班会議の内容の例

#### 班会議の内容

1. 振り返り
  - ① 班の役割について（自分）
  - ② 班で直したいこと、こまっていること
  - ③ がんばっていた友達  
など、気付いたことを発表しよう。
2. 解決の方法
  - ※ 直したいこと、こまっていることを解決するための作戦を立てよう。
3. 班の目標
  - ※ 今週1週間、班のみんなでがんばることを決めよう。
  - ※ 目標が達成できるように、班のみんなで助け合おう。

### 係会議の内容の例

#### 係会議の内容

1. 自分の役割をふり返る
  - ① 班・学級の仕事
  - ② よかったこと
  - ③ 直したいこと
  - ④ こまっていること
  - ⑤ がんばっていた友達  
など
2. 解決の方法を考える
3. 係の目標を立てる
4. ミニ集会の計画を立てる

会議後には、簡単に感想を伝え合わせ、教師が見取った児童生徒のよい姿を伝え、賞賛することを忘れてはいけません。賞賛することでリーダーとして取り組んできたことの価値を実感させ、自己有用感を高めることは、さらなる活動への意欲付けとなります。また、リーダー会を開き、司会役への賞賛や各小集団で話合った内容を共有すること、リーダーとして困っていることについて自分たちで支え合うための方法を検討させることも重要です。

## ステップ3 (2) 児童生徒の実践を支援しましょう

自分たちの計画に沿って活動を行わせましょう。活動を見取る視点は、一人一人が集団に寄与する役割を確実に果たしているか、小集団の中で認め合いや励まし合い、助け合いがなされているかということです。

教師に求められる姿勢は、

- ① 見守る
- ② 励ます
- ③ 賞賛する

です。最初から素晴らしい活動ができるはずはありません。子供たちは、たくさん経験を積みながら少しずつ自分たちで活動を進める方法を身に付けていくはずです。授業の時間にはそう言ってもらえないこともあるでしょうが、学校の日常活動の中の子供たちに任せた短時間の活動であれば、成長の見取りの時間と捉えることも可能でしょう。

活動の中で見付けたよさや頑張り、準備での協力など活動後にグループの子供たちと感想を話し合い、賞賛することで子供たちは自分たちの役割への価値付けを行います。

班の中での役割では、友達を励ます姿や助ける姿を見付けたときに賞賛し、その行為の価値付けを行い、励まし合いや、助け合いのよさを広げていくことが大切です。

また、対人関係等で支援を要する児童生徒には、教師や小集団のメンバーが積極的に支援を行い関わっていくよう働き掛けましょう。その際には、どんな小さなことでもできるようになったことや上手にできたことを伝え意欲をもたせることを忘れてはいけません。もちろん手伝った子は賞賛し、協同的に活動することの大切さを感じ取らせることも大切です。

児童生徒が活動する中で、うまく仕事ができなかったり、役割を果たせなかったりすることも考えられます。その場合には、役割を果たせるよう、教師と児童生徒による支援を積極的に行っていきます。また、互いの思いを受け止められない葛藤の場面が生じることも考えられます。学校生活を送る上での問題点や、それを解決していく方法も集団全体で共有し、共に考えること、自分たちの考えを実行していくことで、よりよい生活を築こうとする主体的な活動が展開されます。ピンチはチャンス。発達段階や実態に応じて、子供たちに任せる場面をつくり、自分たちで乗り越えたという自信をもたせていきましょう。

互いのよさを認め合い、励まし合い、助け合いながら失敗体験や成功体験を積み重ねることを通して、自分たちの目標に近付くために、どんなことが必要なのか、どんな問題点があるのかに気付かせることがよりよい生活を求めさせるためには必要です。

## ステップ4 評価・改善をしましょう

児童生徒の実態は、観察法を基本としながら、気になる児童生徒については面接法や検査法を活用しながら見取ります。

指導方針と照らし合わせて、児童生徒は主体的に活動しているか、児童生徒がどれだけ「志教育ではぐくみたい姿」に近付いているか、教師の支援は適切かを評価し、改善の方策を探ります。

それを基に、個人に対する支援の在り方や集団及びリーダーに必要なトレーニングの計画を立てていきましょう。

単に役割を決めて活動を児童任せにするのではなく、日常的・継続的に繰り返す中で、自分の役割の意義や価値に気付かせたり、友達と協力して活動する心地よさを感じ取らせたり、生活上の問題点に目を向けさせたりできるようにしていきましょう。

そして、最終的には、学校生活を自分たちでよくするために、主体的に考え、話し合い、行動できる児童生徒を育成していきましょう。それが、一人一人の自己実現の基盤となる力となります。

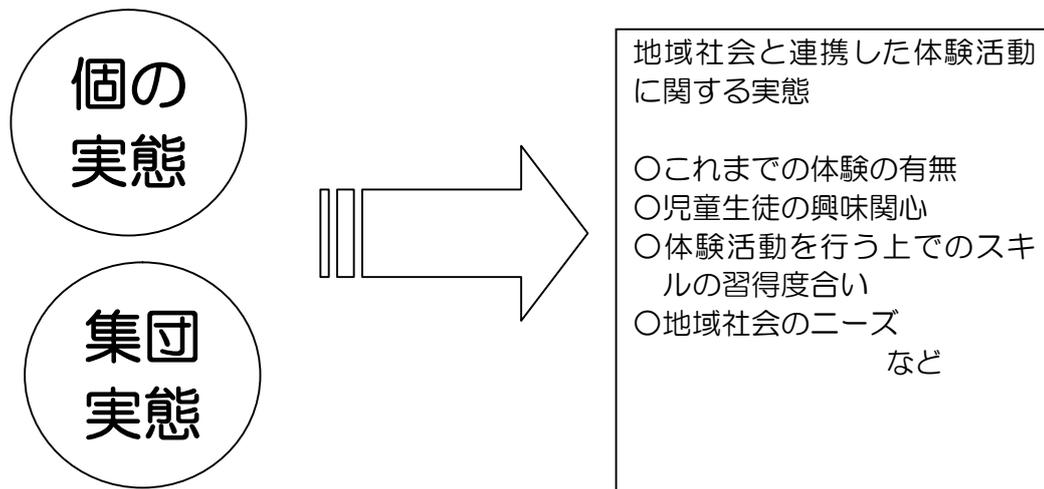
# 基本システムを活用した 地域社会と連携した体験活動

マニュアル

## ステップ1 (1) 実態を把握しましょう

体験活動は、自信や自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待できます。より高い教育的効果を得るためには、志教育の3つの視点から、ねらいを明確にし、他の教育活動と関連付け、事前指導・事後指導を工夫する必要があります。

まずは、日常活動の中で行っている実態把握に加え、地域社会と連携した体験活動を行う上での児童生徒の実態を押さえておくことが重要です。



## ステップ1 (2) 指導方針を決定しましょう

### 1 活動計画を見直しましょう。

事前に活動計画がある場合には、既に掲げられている目標と児童生徒の実態はあっているかどうか。児童生徒の主体的な活動となっているかなどをもう一度見直し、時には修正する必要もあるでしょう。

### 2 教職員でねらいや活動について、共通理解を図りましょう。

この体験活動での、ねらいは何なのか。志教育の視点からはぐくみたい姿（別紙資料参照）は、どんなものを教職員（学年等）で話し合い共通理解を図りましょう。教員側の役割分担も考え、児童生徒への支援の在り方についても、確認しておくことが大切です。

### 3 他の機関との連携が必要な場合には、早めに連絡を取りましょう。

指導方針が決まったら、関係機関と連絡を取り、活動の内容やねらい等を説明し協力をもらいます。日頃から、様々な機関との連携を深めておくと、連携が取りやすくなります。

- |      |         |         |      |      |      |          |
|------|---------|---------|------|------|------|----------|
| ・市役所 | ・教育センター | ・異校種の学校 | ・公民館 | ・図書館 | ・警察署 |          |
| ・病院  | ・消防署    | ・商工会    | ・JA  | ・老人会 | ・企業  | ・NPO団体など |

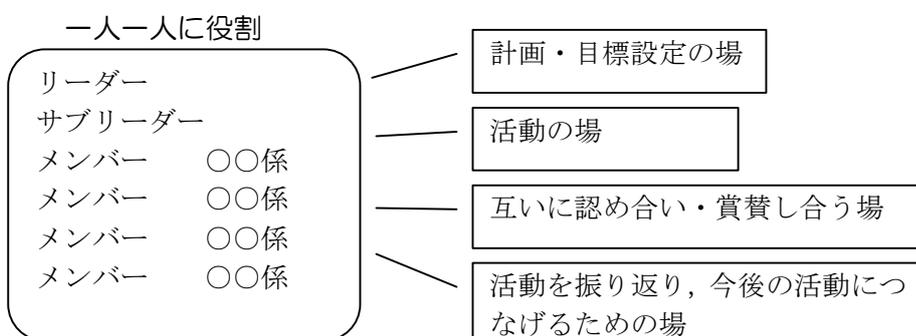
## ステップ2 (1) 体験活動の組織を見直しましょう

地域社会と連携した体験活動から、児童生徒がより多くのことを学ぶためには、児童生徒の主體的な活動とする必要があります。そうなるための活動の場と機会を整備しましょう。

その際のポイントは、学校の日常活動と同じく

- リーダーを中心とした、小集団での活動を基本とする。【かかわる】
- ② 一人一人に集団に寄与する自分に合った役割をもたせる。【はたす】
- ③ 活動を計画し、目標を設定する話合いの場を設定する。【もとめる】【かかわる】
- ④ 一人一人が役割を果たせるように、互いに協力しながら目標の達成に向けて活動する場を設定する。【はたす】【かかわる】【もとめる】
- ⑤ 互いに認め合い、賞賛し合う場を設定する。【かかわる】
- ⑥ 活動を振り返り、今後の活動につなげるための場。【もとめる】【かかわる】

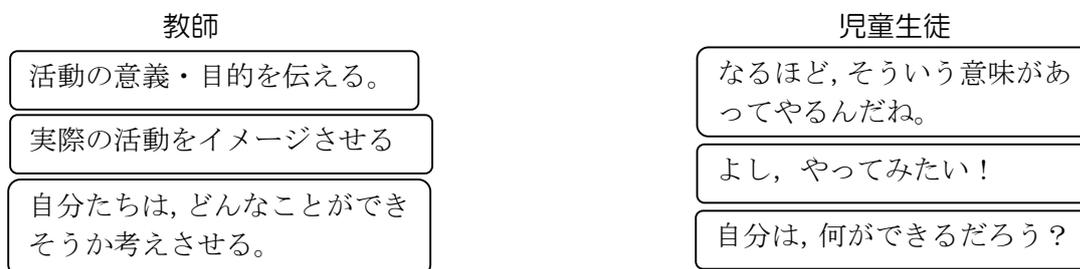
の6点です。



## ステップ2 (2) ガイダンス機能を充実させましょう

ガイダンス(1)・・・活動の意義・目的を説明し、集団全体の目標設定をすること。

地域社会と連携した体験活動を行う上でも、児童生徒に活動の目的や意義をつかませ、活動を通して目指すべき方向を説明することは、意欲喚起のためには欠かすことができないと考えます。児童生徒の実態を押さえた上で、興味関心を引き出す工夫が必要です。また、発達段階に応じて児童生徒が自己理解を深め、日常活動と体験活動の関わりを意識させ、さらに自分の将来の生き方を考えるきっかけとなるような発問の工夫も必要です。



ガイダンス(2)・・・小集団での活動を活発にするためのトレーニングを行う。

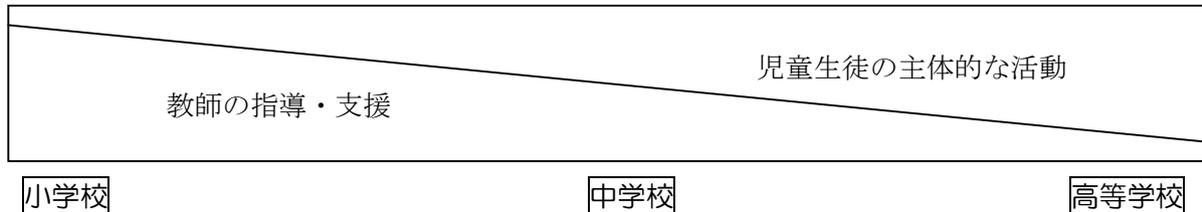
日常活動でのトレーニングを土台に、さらに体験活動で必要になると考えるトレーニングを適宜行う。朝の会や帰りの会などの時間も使いながら行うことも考えられる。

(例) 人間関係を円滑に運ぶためのスキル(あいさつ・話の聞き方・マナーなど)  
リーダー育成トレーニングなど

## ステップ3 教師の支援の在り方

児童生徒は、「計画」「実践」「振り返り」という流れで地域社会と連携した体験活動を行っていきます。教師は、児童生徒の主体性を引き出し、それを支え、伸ばしていくことが大切です。

日常活動で育んだ態度や力を体験活動の「計画」「実践」「振り返り」の段階でも、意識させるようにします。ここでの教師の指導・支援は日常活動の場合と同じように、発達段階に応じて指導・援助から指導・支援そして指導・委任へと意識していきましょう。



### (1) 計画する

プリント等の工夫により、児童生徒ができるだけ自分たちで話し合いができるようにする。

### (2) 実行

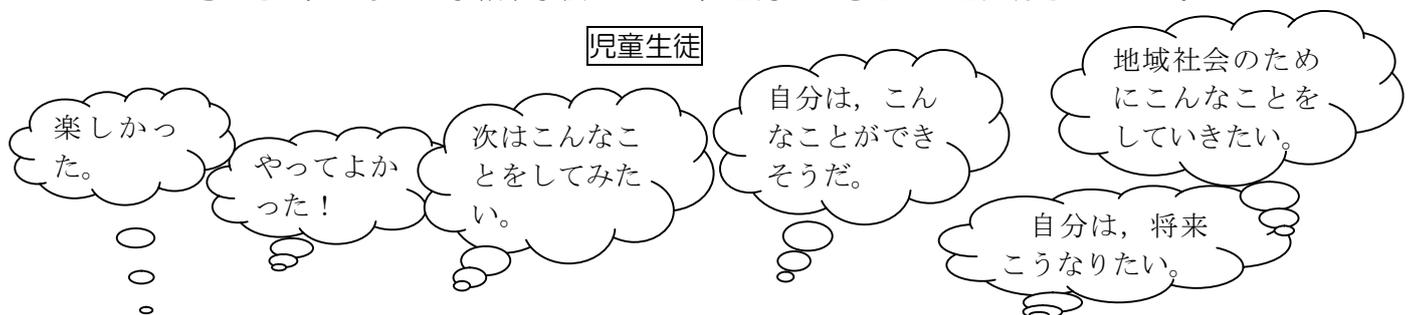
自分たちの計画に従って、主体的に活動できるようにする。

### (3) 振り返り

振り返る視点を与え、体験活動後の気づきや学びを振り返らせる。

個人でのまとめを小集団でシェア（共有）し、さらに発表会などにつなげることでより学びの深まりや広がりが期待できる。

そこでの、気づきや学びをそのままにすることなく、日常活動にどうつなげていくかを考えさせ、よりよい学級や学校のために、自分ができることを実行させていく。



## ステップ4 振り返りましょう！

体験活動後の、振り返りを行います。体感活動をやって終わりにならないように、児童生徒の姿の変容を見取り、活動計画や指導・支援の在り方を振り返り、次の活動につなげていくことが大切です。

| 振り返る視点          | 方 法  |
|-----------------|--|
| ①活動のねらいの達成度     | ・児童生徒の活動における発言内容や行動、学習シートの記述内容などにより、変容を見取る。                |
| ②志教育で、はぐくみたい姿   | ・児童生徒の行動や、事前事後に実施した「アンケート調査」などからどの程度育ったかを見取る。              |
| ③指導計画や指導・支援の在り方 | ・児童生徒の変容から、ステップ1～3までの効果について分析し、その後の体験活動や日常活動での指導に生かす点を考える。 |

**「学校の日常活動」**

**と**

**「地域社会と連携した体験活動」**

**を相互に関連付けた実践モデル**

☆ **小学校編**

☆ **中学校編**

☆ **高等学校編**

☆ **委員会・部活動編**

活動目標「○○な学級をつくる」

教師は、目標達成を児童に意識付けることが大切

所属感をもたせるために（教師の支援）  
 ・児童一人一人が安心できる学級づくりを行う  
 ・学校生活と地域とのつながりを実感させる  
 ・人間関係を構築する基礎となる力を育てる  
 ・問題行動等の未然防止を図る

基本システムを活用  
班・係活動の活性化

基本システムを活用  
体験活動

学校の日常活動（班・係での役割をもたせる）

地域社会と連携した体験活動

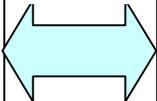
学級の役割

班の役割

- 係活動（3人）
- ・給食（生活）
  - ・保健（生活）
  - ・清掃（整美）
  - ・環境（整美）
  - ・黒板（学習）
  - ・凶書（学習）
  - ・連絡（広報）
  - ・歌声（広報）
  - ・ノート（配達）
  - ・お便り（配達）

- 班活動（4～5人）
- ・給食机ふき
  - ・宿題集め
  - ・学習準備
  - ・お助けサポート
  - ・配り

役割をもつ喜び

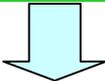


学級のために果たす役割と班での役割をもたせ、友達との関わる機会を増やす。

<係の役割を広げるために>  
 帰りの会で、係毎輪番でクイズを出題するなどみんなが楽しめるコーナーをつくる。

話を聞く  
友達との関わり  
と地域のつながり  
や学校での人

- 1 学年「がっこうたんけん」
- ・挨拶の仕方や安全な歩き方を学び、学校の先生や上級生、登下校時にお世話になる方との触れ合い方を理解する。
  - ・3人から4人でグループを編成し、役割を分担して学校を探検しながら学校の先生や上級生に挨拶し、学校の様子を調べる。
  - ・探検活動後は、絵や文で気付きや感想をまとめ、発表会をする。
  - ・まとめの探検をし、友達の気付きのよさを見付けさせる。



<がっこうたんけん後の活動例>

- 登下校時
  - ・交通指導隊やスクールガードリーダー、登校支援の保護者や先生、上級生と挨拶をする。
- 朝・帰りの会
  - ・発見した友達のよいところを発表する。
  - ・クイズチャレンジなど自分たちで進める場を設定する。
- 学校生活全般
  - ・班の仕事を行う際に友達に、「どうぞ」「お願いします」等一言声をかける。

活動目標「○○な学級をつくる」

教師は、児童と立てた目標に近付くため活動意欲を高めることが大切。

所属感をもたせるために（教師の支援）

- ・児童一人一人が安心できる学級づくりを行う
- ・地域の一員として役に立つ喜びを実感させる
- ・コミュニケーションを通じた人間関係を構築する
- ・問題行動等の未然防止を図る

基本システムを活用  
班・係活動の活性化

基本システムを活用  
体験活動

学校の日常活動（班・係を有機的に関連付ける）

学級の役割

係活動（5～6人）

- ・計画係
- ・生活係
- ・整備係
- ・広報係
- ・学習係
- ・配達係

班の役割

班活動（5～6人）

- ・班長（計画係）
- ・副班長（生活係）
- ・清掃（整備係）
- ・便り（広報係）
- ・宿題（学習係）
- ・連絡（配達係）

係に応じた役割を班で受け持つ

学級のみんが楽しめるミニ集会の企画・運営

各系のメンバーで班を構成し、班長をリーダーとして、支え合いの活動を行う。

<係と班の役割を関連づけた活動例>

- ・学習係 班→家庭学習ノートの集配
- 学級→黒板を消す, 班対抗計算チャレンジ

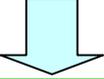
社会性  
主体性  
責任感  
などを  
生かす

地域社会と連携した体験活動

3学年「幼稚園児との交流」

- ・自分が幼稚園に通っていた頃を思い出し、どんな遊びをしていたか話し合う。
- ・5～6人のグループを編成し、園児とどんな遊びをして楽しむかを話し合い、役割を分担して準備や練習をする。
- ・児童のリードでグループ毎に園児との遊びを楽しむ。
- ・体験活動終了後は、グループでの感想を交換し合い、次回の交流に向けて改善点を話し合う。

勤労観  
社会と  
のつな  
がり



<幼稚園児との交流後の活動例>

振り返りの話し合いを生かし、児童の発想で以下のような活動が期待できる。

- 係活動
  - ・ミニ集会に1年生や2年生を招待し、一緒に活動する。
  - ・イラストコンテスト（広報係）やノート運びリレー（配達係）など係に応じた計画を立て、下級生のお世話をしながら学校の仲間として一緒に楽しむ。
- 班活動
  - ・読書タイムに下級生を招待し、読み聞かせを行う。
  - ・下級生と一緒に給食を食べる。（準備や片付けの仕方を教えたり、手伝ったりする。）

活動目標「〇〇な学級 〇〇な学年になろう！」

生徒が目指すべき方向をはっきり見せる。

学校生活をよりよくさせるために（教師の支援）

- ・クラスや学年内のよりよい人間関係を構築する
- ・生徒一人一人の所属意識や自己有用感を高める
- ・学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる

基本システムを活用  
委員会・係活動を活性化

基本システムを活用  
生徒の主体的な活動

学校の日常活動（学年の係と学級の係を連携して行う）

地域社会と連携した  
体験活動

学年

- 係
- ・計画（班長）
  - ・生活，広報
  - ・整美
  - ・図書
  - ・学習
  - ・保健

学級

- 班
- ・計画（班長）
  - ・生活，広報
  - ・整美
  - ・図書
  - ・学習
  - ・保健

- 行事の企画運営
- 新聞作成
- 教室内の美化
- 学級文庫の整理
- 授業連絡
- 健康・安全の推進

クラスから選出  
仕事の連携

社会性，主体性，責任感などを生かす

勤労観，職業観，社会とのつながり

各学級からの係で学年係集団を作る。

各係のメンバーで班を組織し，小集団で活動する。

<学級・学年との連携による活動例>

- 計画係（班長）
  - ・学年レク大会の企画・運営などをして，まとまりのある学年集団を目指す。
- 学習係
  - ・学習方法の紹介やテスト範囲表の作成など，みんなで学力向上を目指す。

- 1 学年
- 「福祉施設訪問」
- ・「福祉」について考える。
  - ・4人から5人のグループを編成し，福祉施設で自分たちができることを計画する。
  - ・体験活動終了後は，計画係が中心となって報告会を行い，学びを共有する。
  - ・係毎に新たな活動について話し合う。

<福祉施設訪問後の活動例>

- 計画係・・・学年のみんなが生活しやすいものになっているかを考え，仲間を支えるリーダーとしての自覚を高める。
- 生活，広報係・・・福祉施設訪問の様子を新聞にまとめ，発表会で伝えきれなかったことをみんなに伝える。
- 整美係・・・学年みんなが気持ちよく生活できる環境整備を行う。
- 図書係・・・福祉に関する本の紹介を行う。
- 学習係・・・福祉に関する仕事の紹介を行う。
- 保健係・・・学年みんなの健康，安全，衛生面での意欲喚起を行う。

# 活動目標「県内No.1の高校をつくる」

スローガン「学校は一つの社会」

生徒は大きな目標に向かうことが大切。

学校生活をよりよくさせるために（教師の支援）

- ・クラス内の人間関係を構築する
- ・いじめ・不登校などの問題行動を未然防止する
- ・生徒一人一人の所属意識を高める
- ・生徒一人一人の自己有用感を高める
- ・学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる

基本システムを活用  
委員会・係活動を活性化

基本システムを活用した  
主体的な体験活動

学校の日常活動（生徒会活動の委員会と  
ホームルーム活動の係を連携して行う）

## 生徒会活動

### 委員会

- ・代議委員会
- ・進路委員会
- ・生活安全委員会
- ・交通安全委員会
- ・図書委員会
- ・視聴覚広報委員会
- ・保健委員会
- ・環境福祉委員会

クラスから  
選出

業務の連携

## ホームルーム係活動

班

- ・企画係
- ・進路学習係
- ・生活係
- ・図書・広報係
- ・整美係

行事の企画  
運営

授業連絡

挨拶運動

生徒会  
新聞作成

花壇植栽

など

各係のメンバーで班を組織し、  
小集団でリーダーを育成する。  
グループ学習を取り入れる際  
に有効。

社会性、  
主体性、  
責任感  
などを  
生かす

勤労観、  
職業観、  
社会と  
のつな  
がり

## 地域社会と連携した 体験活動

1 学年

「職業人インタビュー」

- ・委員会（係）の仕事に関連のある事業所へ訪問する。
- ・1学年の行事として実施するため、学年全クラスの同じ係のメンバーが集まり、事業所を決定する。
- ・4人から6人グループを編成し、リーダーを中心に主体的な活動につなげる。
- ・体験活動終了後は、他学年の委員会のメンバーに伝えるため、報告書をまとめる。

<委員会・係との連携による活動例>

- 生活安全委員会（生活係）
  - ・委員会のメンバーをリーダーとして、各クラスの生活係が輪番で挨拶運動を行う。
- 環境福祉委員会（整美係）
  - ・花壇の管理をクラスの整美係と連携し、年間を通して花と緑の学校を目指す。

<職業人インタビュー後の活動例>

- 視聴覚広報委員会（生徒会新聞作成）
  - ・職業人インタビューで学んだ内容を1年生が委員のメンバーに対して体験活動の報告をする。
  - ・共有した情報を基に、学校生活をよりよくするためにはどうするかなど、今後の取り組みについて検討する。
  - ・各委員はクラスに戻り、図書・広報係に委員会の取組内容を伝達する。
  - ・各クラスごと、学校通信を作成する。完成版は、保護者、中学校へ配布する。
- 図書委員会（読み聞かせボランティア）
  - ・職業人インタビューで読み聞かせについての知識技能を学ぶ。
  - ・委員会メンバーで、1年生が学んできた内容を共有する。
  - ・委員会活動の一環で、読み聞かせボランティアを計画・実践する。

生徒会目標「○○○○」

生徒が目指すべき方向をはっきり見せる。

〈教師の指導・支援〉

- ・地域社会と連携するために、関係機関との連絡調整を行う。
- ・生徒の主体的な活動となるよう、支援を行う。

基本システムを活用  
学校の日常活動

○○学校から地域社会に発信しよう！

生徒会活動

生徒代表委員会

委員会連絡会議

部代表者会議

各種委員会

各部活動

- ・生徒代表委員会からの提案として、委員会や部活動毎に創意工夫を生かした地域社会のためになる活動を考えさせ、実行させる。
- ・委員会は1年間の常時活動の延長として行う。
- ・部活動は、夏休みなどの長期の休みの期間を活用する。

生徒の主体的な活動

地域社会と連携した  
体験活動

各種委員会

- ・地域との奉仕活動
- ・福祉施設訪問
- ・非行防止キャンペーンへの参加など

各部活動

- ・異年齢とのスポーツ交流
- ・合同演奏会の実施
- ・合同発表会の実施など

社会性、主体性、責任感などを生かす

勤労観、職業観、社会とのつながり

〈体験活動発表会の実施〉

- 生徒会執行部は、各委員会や各部の活動状況を押さえ、生徒朝会などを使って報告会を企画する。〈各種委員会・各部活動での新たな取組〉
- 自分の活動がどう地域のためになったかを振り返ることにより、同じ活動でも新たな気持ちで臨んだり、これまでの活動を見直した新たな活動を考え、実行する。

小學校

# 係會議實踐

- 特別活動指導案
- 實踐資料

## 第5学年 特別活動学習指導案

日 時 平成24年10月24日(水)  
2校時(9:30~)  
場 所 5年1組 教室  
指導者 教諭 津田 友昭

### 1 題材名 係会議を開こう

### 2 題材の目標

#### 【関心・意欲・態度】

- ・係の役割を通して気付いた学級のよい点や直したい点を進んで発表する。
- ・友達の話最後まで聞き、進んで話合いに参加する。
- ・班や学級の中で自分の役割を進んで果たそうとする。

#### 【思考・判断】

- ・係の役割を通して班や学級全体を見つめ、よくなったことや改善が必要なこと、友達の頑張りに気付くことができる。
- ・「困っていること」「直したいこと」について解決する方法を考え、係で取り組む活動を決めたり、自分がサポートできることを考えたり、よりよく判断することができる。
- ・「朝の活動」を運営するために必要な準備や役割を考え、自分のよさを生かせる役割を判断できる。

#### 【技能・表現】

- ・自分の思いや考えを分かりやすく話し、自分の考えと比較しながら友達の話最後まで聞くことができる。
- ・あいさつや話し方、聞き方など学習で身に付けた技能を進んで活用することができる。

#### 【知識・理解】

- ・係の役割を通して、班や学級内で自分の役割のもつ意義を理解している。
- ・話合いを通して学級生活上の諸問題を解決するための手続きや方法を理解する。

### 3 指導にあたって

#### (1) 題材について

学級生活を円滑にするためには、学級内にある様々な仕事や役割を分担して行う必要がある。また、より楽しく生活するためには、一人一人の児童にとって学級が安全で安心できる居場所となっていなければならない。そのためには、児童が互いに励まし合ったり、助け合ったりできる人間関係を築くことが大切となる。そこで、学級生活の中にある班や係、当番の活動という小集団での活動を見直すことにした。班や係、当番の活動は、授業時間を当てない時間に実践されるものの、児童が役割や他者との関わりを通して学級生活を見つめるのによい活動であると考えたからである。また、日々継続して行われる体験的な活動であるため、役割や仕事を繰り返し行いながら自分ができるようになったことはもちろん、友達ができるようになったことや助けてもらったことへの気付きも期待できる。加えて、問題が起きたときの解決方法をみんなで考えたり、決めたことを即実践に移したりすることもできる。そこで、班・係、当番の活動を志教育の視点から捉え直し、「役割を果たしながら他者と関わり、認められる場」「よりよい生活を主体的に求め活動する場」をつくり出すことで、人間関係を構築するための活動の場の一つとするとともに、自己有用感や主体的に学級生活をよりよくしようとする態度を高める活動にしたいと考えた。

本活動「係会議」は、月1回実施を予定している活動で、役割への取組を振り返り、認め合いや活動の改善を図るための話合いを行う場である。また、本校で金曜日の業前に実施している「朝の活動」についても週替わりで係に担当させ、その計画を話合う場としても活用する。週1回の「班会議」が、班の中で役割を果たしながら他者と関わる中での認め合いや生活改善の手続きを踏む色合いが濃いのにに対し、「係会議」は、よりよい学級にするために自分たちで工夫して活動する要素をより多く含んでいる。故に、振り返りの活動から学級生活に目を向け、学級の問題点に気付いたり、その気付きをもとに活動内容を工夫したりするなど、主体的な活動につなげ、自分

や友達の特性に気付かせ、それを生かして生活をよりよくしていこうという態度を育てていきたい。

## (2) 児童の実態 (男 16 名, 女 19 名, 計 35 名)

| 学級全体の様子  | 班活動   | 係活動  |
|--|---|--|
| 与えられた仕事に対しては、進んで取り組んでいる。休み時間には、活発に外遊びをする子が多い。言葉が足りないために、誤解されたり、相手の思いを理解できなかったりし、トラブルに発展することもある。集団としての意識が薄く、友達への要求が強くなり、助け合おうという雰囲気を妨げることもある。 | 学習時にグループ活動を行う際に活用してきた。少人数での話し合いでは、意見を言って満足してしまい、他の考えを聞こうという姿勢に欠ける子も見られる。その他、清掃活動を一緒に行っているが、上手にできない子や、ちゃんとやっていない子に対して声かけが厳しくなる。また、注意を素直に聞けない様子も見られる。 | 1学期は、配達、図書など9つの係を設置。内8つの係は、ノート配りや黒板消しなど当番的な内容であった。活動機会は係によっても異なることに加え、係内でも仕事の頻度に違いがあった。それは、与えられた当番の仕事をするにあたって、児童が協力する必要性やよさを感じていなかったためではないかと考える。 |

## (3) 指導の着眼

係は、計画係(班長)、生活係(副班長)、整美係、広報係、学習係、配達係の6つがあり、班にはそれぞれ係のメンバーが1名(1班のみ配達係不在)ずつ入るように構成する。これは、班の中で係に応じた毎日の役割をもたせるためであり、小さな役割でも役に立っているという気付きを促すためである。また、学級のために週1回の役割を分担して行わせる。これは、人間関係を班の中だけにとどめることなく学級という大きな集団を意識させるためでもある。これらの活動は、当番的な要素を含むものの、毎日継続して行いながら小さな「できた」を積み重ね、所属感を高めるとともに、「すごい」「ありがとう」等他者からの承認を期待するためである。

そこで、班・係の活動を活発にし、信頼・友愛・協力等のある豊かな学級集団にするために以下の点に留意しながら指導にあたっていきたい。

### ① 役割を果たしながら他者と関わり、認められる体験の工夫

- ・班(毎日)・学級(週1回)の友達に寄与する果たすべき明確な役割をもたせる。
- ・教師は、サポートや声のかけ合いなどよい姿を賞賛し、全体に広げる。

○班会議、係会議での振り返りを重視し、よかった点の共有、がんばった友達への賞賛、助けてもらったことへの感謝の気持ち等を伝え合わせる。

- ・自分の役割を確実に果たせるよう、教師が支援したり、班長や係長を中心にメンバーにサポートさせたりする。

○互いがサポートし合うことで、目標を達成できたという心地よさを味わわせる。

### ② よりよい生活を主体的に求める活動を促す工夫

○班会議・係会議での振り返りを大切にし、役割を通して学級をもっとよくするためにという視点で「直したいこと」「困っていること」の気付きを共有させる。

○会議の中で、改善策を話し合い、みんなで実践しながら解決に向かおうという意欲を高める。

○班や係の目標を設定させ、一人一人に自分の役割を最後までやり通そうという意欲をもたせる。

○みんなを楽しませる活動を係毎に計画させ、準備や準備に必要な役割を分担しながら協力して行わせる。

- ・実践を通して自分の役割を果たし、それが集会活動の成功につながったという達成感をもたせる。

班や係での話し合いやサポート活動を円滑に行わせるためには、班長や係長という小集団リーダーの役割が重要になる。そこで、班長会、係長会というリーダー会議を短時間で行い、賞賛したり、互いの頑張りを認め合ったり、活動の見通しをもたせるようにしたい。また、困っていることや悩みなどを出し合い、みんなで解決策を考えるなどサポートし合うことで、意欲を持続させていきたい。

#### 4 係会議までの日程

| 月日, 時間         | 活動名   | 対象       | 活動内容  |
|----------------|-------|----------|---|
| 11月18日<br>業間   | 班長会   | 班長       | ・班の様子について ・班会議の進め方確認<br>・学級会の役割分担 ・エクササイズ選定   |
| 10月23日<br>業前活動 | 班会議   | 学級<br>全員 | ・振り返り（班・学級の役割, 困っていることや直したいこと）<br>・認め合い（がんばっていた友達, がんばったこと）<br>・解決方法を考える（困っていること, 直したいことについて）<br>・週間班目標の設定（1週間班のみんなでがんばること） |
| 10月23日<br>朝の会  | 全体へ連絡 | 学級<br>全員 | ・班長（計画係）から全体に連絡<br>・係会議を行う訳<br>・朝の活動の内容を考えてもらうこと  |
| 10月23日<br>業間   | 係長会   | 係長       | ・係会議の進め方について ・係長の役割について<br>・朝の活動の計画について   |

#### 班会議での役割分担と身に付けさせたい力等

- |          |           |              |
|----------|-----------|--------------|
| ・司会      | →計画係（班長）  | 話合いの進め方      |
| ・全体記録    | →生活係（副班長） | 記録の取り方, まとめ方 |
| ・発表（反省）  | →整美係      | 話して伝える表現力    |
| ・掲示物     | →広報係      | 書いて伝える表現力    |
| ・振り返りカード | →配達係      | 声のかけ方        |
| ・発表（目標）  | →学習係      | 話して伝える表現力    |
- ※ 司会, 全体記録以外の役割は, 輪番で行う。

#### 係会議での役割分担と身に付けさせたい力等

- |          |      |              |
|----------|------|--------------|
| ・司会      | →係長  | 話合いの進め方      |
| ・全体記録    | →副係長 | 記録の取り方, まとめ方 |
| ・掲示用記録   | →    | 書いて伝える表現力    |
| ・反省・目標発表 | →    | 話して伝える表現力    |
| ・計画書作成   | →    | 書いて伝える表現力    |
| ・活動内容発表  | →    | 話して伝える表現力    |
- ※ 司会, 全体記録以外の役割は, 輪番で行う。

5 本時の指導

(1) 議題名 「係会議を開こう」

(2) ねらい

- 係会議の内容を知り、係会議の実践を通して活動への意欲を高める。

(3) 準備物

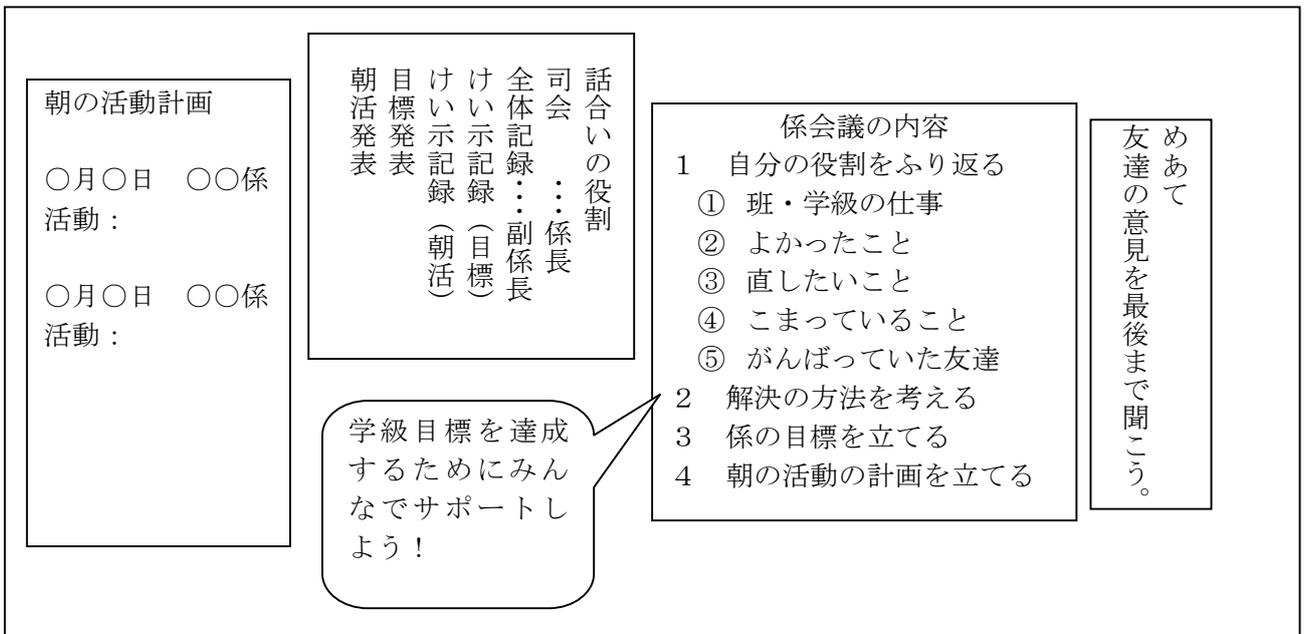
- ・児童 班活動振り返りカード
- ・計画係 学級会進行表 エクササイズ準備
- ・係長 係会議の進め方 係長の役割
- ・教師 係会議記録用紙 係会議記録掲示用 朝の活動計画書 朝の活動担当表

(4) 指導過程 (別紙)

(5) 評価

- 係会議の進め方が分かり、係会議の実践を通して活動への意欲が高まったか。

(6) 板書計画



※別紙 指導過程

| 段階          | 児童の活動   | ○指導上の留意点と・支援   |
|-------------|---|--|
| つかむ<br>10分  | 1 あいさつと雰囲気作りの簡単なゲームをする。<br>(・あいこジャンケン)<br><br>2 今日の活動を確認する。<br>係会議を開いて、学級の生活をよりよくしよう。<br>3 めあてを確認する。<br>友達の話をも最後まで聞こう。  | ○ 児童の進行で、会を進めさせるため、あらかじめ班長会議の中で進め方や内容について確認しておく。<br>・ 教師は、ゲームに戸惑う子がいたら、班長に積極的に誘うよう働き掛けたり、一緒に活動したりする。<br>○ 進行児童の指名で数人の児童に感想を発表させ、たくさんの友達と関わった楽しさを共感させる。<br>○ 進行役の児童に活動の内容を発表させ、自分たちの係の役割を通して学級目標達成に近づくことを伝える。<br>・ 教師は、活動内容とその意義を補足説明する。<br>○ めあてを確認し、係会議でも、班会議同様友達の話をも最後までしっかり聞くことが大切であることを伝える。  |
| 見通す<br>5分   | 4 話し合う内容を確認する。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             係会議の内容<br/>             1 自分の役割を振る返る<br/>             ① 班・学級の仕事<br/>             ② よかったこと<br/>             ③ 直したいこと<br/>             ④ 困っていること<br/>             ⑤ 頑張っていた友達<br/>             2 解決の方法を考える<br/>             3 係の目標を立てる<br/>             4 朝の活動の計画を立てる           </div> | ○ 教師は、それぞれが役割を果たすことで、学級での生活がスムーズになっていること、もっとよくする(学級目標に近づく)ために、自分たちができることを探す活動であることを具体的に話し、意欲を高める。<br>○ 教師は、よかったことや頑張っている友達には、拍手や賞賛の言葉を伝えるよう促す。<br>○ 解決に向けて、互いにサポートできることはないかを考えること、自分たちが考えたことを実行することで学級がよりよくなることを伝え、話し合いの意欲を高める。<br>○ 振り返りの記録用紙、朝の活動計画書を準備し、話し合いの流れを確認しながら進められるようにする。<br>○ 教師は、「朝の活動」については、自分たちの係らしい活動を考えておくようあらかじめ伝えておく。<br>○ 教師は、これまでの学習を意識した話し方・聞き方を確認し、積極的に活用するよう促す。  |
| 話し合う<br>20分 | 5 係会議をする。<br><br>・ 役割を分担する<br>・ 振り返り(一人ずつ)<br>(認め合い、賞賛)<br>・ 解決の方法を考える<br>・ 係の目標を立てる<br>・ 朝の活動の計画を立てる。  | ○ 司会(係長)、全体記録(副係長)、発表(2名)、掲示用記録(2名)の役割を分担して話し合いをさせる。<br>・ 係長には、係長会議であらかじめ進め方を確認しておく。発表できない子には「班の仕事はどうでしたか。」等具体的な声掛けをしながら振り返りを促すよう係長に伝えておく。<br>○ 認め合い等、話し合いの進め方のよい点を賞賛する。<br>○ 役割を通して学級の問題を見つめさせるため、直したいこと、困っていることについて、係で話し合わせ、解決方法を考えさせる。自分たちに実践可能かどうかを吟味させる。<br>・ 自分たちでサポートしながら進めること、みんなに呼びかけて協力をお願いすることという視点で考えさせる。<br>・ 特定の子を注意するのではなく、みんなでどのようにサポートすればいいかを考えさせる。<br>・ 話し合いに積極的に参加していない様子が見られる児童には、個別に声掛けし活動を促す。<br>○ 係目標の設定に当たっては、次の振り返りができるかどうかを意識させ、達成感がもてるよう具体的な行動目 |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  |   | <p>標となるよう意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視しながら、各係の目標をチェックし、具体的にアドバイスしたり、「こういうことをするんだね。分かりやすい。」等アナウンスしたりする。</li> <li>○ 「朝の活動」の計画は、「係らしさ」「みんなで楽しめる」という観点で話し合わせる。その際、個々の活動ではなく、班で協力や助け合いながら活動できるかも加味して考えさせる。</li> <li>・ やり方やルールについては、自分の班で各自が説明できるよう共通理解をしっかりと行うよう促す。</li> <li>○ 決めきれなかった内容については、休み時間等に自分たちで話合いの時間をもつようにさせる。</li> </ul>        |
| <p>ま<br/>と<br/>め<br/>る<br/><br/>10<br/>分</p> | <p>6 決まったことを発表する。</p> <p>7 係会議の振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 係毎に「係の目標とお願いしたいこと」「朝の活動の内容」について発表させる。</li> <li>・ 発表の前に係の中で発表内容を確認させる。</li> <li>・ 発表者には、全体に聞こえるように、聞き手には最後まで聞くよう声がけする。</li> <li>○ 係の仕事への励ましや、「朝の活動」を楽しみにしていることを告げる。</li> <li>○ 係会議をした感想を発表させる。話合いで頑張った友達にも目を向けさせる。</li> <li>○ これからみんなのやる気で学級をもっとよくしていけること、互いにサポートし合いながら一人一人のできることが増えていくことを楽しみにしていることを伝え、活動を励ます。</li> </ul> |

## 学級活動進行表

### 1 あいさつ

「起立。これから、第〇回学級会を始めます。礼。着席。」

### 2 エクササイズ（雰囲気作り）

「初めに、ゲームをします。今日のゲームは〇〇です。ルール（やり方）は、～です。」

「何か質問はありますか。」

（質問があったら、答える。分かりにくいときはやってみせる。練習をする。）

「では、始めます。」

※ 活動する。

「自分の席に戻りましょう。」

「感想を発表してもらいます。」「〇〇さん、どうでしたか。」

### 3 役割と活動の紹介

「今日の役割をしょう介します。」

「ゲームは、〇〇さんと〇〇さんに担当してもらいました。」「ありがとうございました。」

「進行の〇〇です。」「〇〇です。」「よろしくをお願いします。」

「活動のしょう介は、〇〇さんと〇〇さんです。」「よろしくをお願いします。」

「今日の活動を確認します。担当の〇〇さん〇〇さんをお願いします。」

「今日の活動は『係会議を開こう』です。」

「係会議の内容は、前にお知らせしたとおりです。」

「黒板にはっておくので確認しながら進めてください。」

「今日の係会議のめあては、『友達の話最後まで聞こう』です。」

「係のみんなで協力してがんばりましょう。」

「会議の司会は係長さん、記録は副係長さんをお願いします。」

「会議中の役割については、係長さんから連絡があります。係毎に役割分担して進めてください。」

「〇時〇分になったら係毎に発表してもらいます。」

### 4 係会議

「では、係会議を始めて下さい。」

### 5 発表

「時間になりました。一度会議を中断して下さい。」

「話し合ったことを発表してもらいます。」

「初めに、計画係さんをお願いします。」

「次に、生活係さんをお願いします。」

「次に、整美係さんをお願いします。」

「次に、広報係さんをお願いします。」

「最後に、学習係さんをお願いします。」

### 6 感想発表

「今日の会議で、めあて、よかったことやがんばっていた友達を発表してもらいます。」

「〇〇さん、今日の話し合いはどうでしたか。」

### 7 先生のお話

「最後に先生からお話をさせていただきます。先生をお願いします。」

### 8 あいさつ

「目標達成に向けて、係毎計画を実行していきましょう。」

「こまったときは、みんなで助け合ってがんばりましょう。」

「起立。これで第〇回学級会を終わります。礼。」

## 班長のみなさんへ

### 1 班長さんは、班のリーダーです。

だから、班会議の司会をしてみんなの考えをまとめる仕事をするのです。といっても、1人でがんばる必要はありません。みんなの考えを生かして一緒にがんばろうというふん囲気をつくりましょう。

そのためには、1人1人の話をよく聞きことが大切です。うなずきながら聞く、「うんうん」「いいね」など話しやすくすることを心がけましょう。

さらに、班長はみんなのサポートリーダーです。こまっている人には進んで声をかけましょう。

### 2 では、班会議の流れを確認します

#### ① 活動のふり返りをします

まずは、ふり返り「よかったこと」「直したいことや困っていること」「友達のいいところ」を1人ずつ発表してもらいます。

でも、発表が得意な人ばかりではありません。苦手な人にはサポートしてあげましょう。

「係の仕事は毎日忘れないでできた？」と話すきっかけをつくってあるのです。

#### ② 直したいこと、こまっていることを解決する方法を考えます

班でサポートし合えること(一緒にやってあげるよ、こうするといいよ)は、ありませんか。

※個人こうげきにならないように、みんなでサポートしてあげられることを考えましょう。

#### ③ 班の目標を決めます

今週、班でがんばる目標を立てます。

いつ、(どこで)、だれに、なにを、どうする かが分かるようにしましょう。

みんなががんばろうという気持ちになることが大切です。

サポートリーダー・・・こまっている人がいたら

「大丈夫?」「手伝おうか?」「～も手伝ってくれない。」

みんなが助け合えたら学級目標に近付きます。

話合いの司会

・・・まずは、よく聞くこと、最後まで聞くこと、理解してあげること。

つぎに、みんなで決めること、

押しつけるのではなく助け合って、サポートして、

一緒にやろうという気持ちになりましょう。

役割分担

・・・みんなが役割をもつこと。

大変さがだれか1人にかたよらないようにしましょう。

でも、「こまったらいつでもサポートするよ。」という気持ちを持ちましょう。

声かけ

・・・「いいね」「すごいね」「さすが」こんな言葉は言われてうれしいです。

やる気も出ますよ。

# 班会議の進め方

これから〇班 班会議を始めます。礼。

はじめに、先週のふり返りをします。先週の班目標は「  
一人ずつ、「がんばったこと」「直したいこと、こまっていること」「がんばっていた班の友達」  
など、気づいたことを発表してください。よい点、がんばった友達には、はく手をしましょう。  
直したいことやこまっていることには、どんなサポートができるか考えましょう。

次に、直したいこと、こまっていることを解決する方法を考えます。

※～については、どうすればいいと思いますか。

※～という考えが出ました。(他にありませんか。)

※まとめます。今週は～をがんばってみましょう。

それでもだめだったら、来週～してみましょう。

最後に今週の班目標を決めます。

※今週直したいことを解決するために～をがんばることになったので～にしませんか。

今週の〇班の目標は、～です。みんなで助け合ってがんばりましょう。

これで、〇班 班会議を終わります。

## 意見のまとめ方

① 出された意見を確認・整理する。

～、～、～という意見が出ました。

② 出された意見に対するみんなの考えを聞く。(質問でもよい)

班のみんなががんばる方法はどれがいいと思いますか。

※班のみんなが取り組むのに1番いい方法を選んでもらう。

③ まとめます。※全員納得の場合はOK

意見が割れたら…今週はこれをしてみませんか。(提案する)→納得OK

納得しない人がいたら…今週はどんなことをがんばりたいですか。(提案してもらう)

皆さんどうですか。→納得OK

納得しない人がいたら…では、今週は賛成が多かった～をしてみます。うまく解決し

なかったら来週～してみましょう。

班のみんなががんばろうという気持ちを高めましょう。

心得1 班の友達の意見を大切にすること。(意見を大切にすることは、その人を大切にすること)

心得2 意見が出ないときは、「～さんはどう思いますか。」と聞いてみましょう。

心得3 それでも意見が出ないときは、「わたしは～と思うのですがどうですか。」と提案して  
みましょう。

心得4 自分だけががんばっても、班での話し合いはうまくいきません。メンバー全員が意見  
を出しているか。「～さんはどうですか。」と声をかけてみましょう。

心得5 決めることが目的ではありません。みんなが実行できること、できない人がいたら  
班のメンバーでサポートしながらできるようにしてあげることが目的です。

心得6 みんなは1人のために(不安な人や、こまっている人がいたら班のみんなでサポー  
ト)

心得7 1人はみんなのために(自分の役割を果たすことはみんなの役に立つことです)

# 班会議の内容

## 1. ふい返し

- ① 班の役割について(自分)
- ② 班で直したいこと, こまっていること
- ③ がんばっていた友達

など, 気付いたことを発表しよう。

## 2. 解決の方法

- ※ 直したいこと, こまっていることを解決するための作戦を立てよう。

## 3. 班の目標

- ※ 今週1週間, 班のみんなでがんばることをきめよう。
- ※ 目標が達成できるように, 班のみんなで助け合おう。

# 班 班会議記録

| よかったこと           | がんばった友達 |
|------------------|---------|
|                  |         |
| 直したいこと, こまっていること | 解決する方法  |
|                  |         |

今週の \_\_\_\_\_ 班の目標

|  |
|--|
|  |
|--|

# 係長のみなさんへ

## 1 係長さんは、係のリーダーです。

だから、係会議の司会をしてみんなの考えをまとめる仕事をするのです。といっても、1人でがんばる必要はありません。みんなの考えを生かして一緒にがんばろうというふん囲気をつくりましょう。

そのためには、1人1人の話をよく聞きことが大切です。

うなずきながら聞く、「うんうん」「いいね」など話しやすくすることを心がけよう。

さらに、係長はみんなのサポートリーダーです。こまっている人には進んで声をかけよう。

## 2 では、係会議の流れを確認しよう

### ① 活動のふり返り

まずは、ふり返り「よかったこと」「直したいことやこまっていること」「友達のいいところ」を1人ずつ発表してもらおう。

でも、発表が得意な人ばかりじゃないから、苦手な人にはサポートしてあげよう。

「係の仕事は毎日忘れないでできた？」と話すきっかけをつくってあげよう

### ② 直したいこと、こまっていることを解決する方法を考えよう

係でサポートし合えること（一緒にやってあげるよ、こうするといいよ）

学級のみんなに呼びかけること（その場合はあんまり多くならないように）

※ 個人こうげきにならないように！

### ③ 係の目標を決めよう

今月、係でがんばる目標を立てます。

いつ、（どこで）、だれに、なにを、どうする かが分かるようにしよう

### ④ 朝の活動の計画

朝の活動の内容を話し合おう

・どんなことをするか・・・係らしさを生かして

・ルールを工夫しよう・・・班で協力・助け合いながらできるように

・活動に必要な準備物を考えよう

・役割分担をしよう・・・準備、活動、プログラムの役割を決めよう

みんなががんばろうという気持ちになることが大切です。

サポートリーダー・・・こまっている人がいたら

「大じょう夫」「手伝おうか」「～も手伝ってくれない」

みんなが助け合えたら学級目標に近付くよ。

話合いの司会

・・・まずは、よく聞くこと！最後まで聞くこと！

理解してあげること！

つぎに、みんなで決めること！

押しつけるのではなく手伝って！サポートして！

一緒にやろうという気持ちになろう。

役割分担

・・・みんなが役割をもつこと！

大変さがだれか1人にかたよらないように！

でも、こまったらいつでもサポートするよ！という気持ちをもつ！

声かけ

・・・いいね、すごいね、さすが、こんな言葉は言われてうれしい

やる気も出るよ！

## 係会議の進め方

これから、〇〇係 係会議を始めます。礼。

はじめに、係の仕事のふり返りをします。

班の仕事、学級に仕事について

よかったこと、直したいことやこまっていること、がんばっていた友達の順で発表してください。

よかった点は、～と～です。

がんばっていた友達は、〇〇さんが～していたことと、△△さんが～してくれたことです。

次に、直したいことやこまっていることを解決する方法を考えます。

※意見のまとめ方を参考に係の考えをまとめてみましょう。

では、〇〇については、〇〇のようにしていきます。と確認も忘れずに！

次に、係の目標を決めます。意見はありませんか。

※意見のまとめ方を参考に係の考えをまとめてみましょう。

最後に、「朝の活動」の生活を立てます。

※計画書にそって話し合しましょう。

今日決まったことを確認します。記録の～さん（副係長）お願いします。

決まったことについては、発表者の〇〇さん全体に発表してください。

これで 〇〇係 係会議を終わります。

### 意見のまとめ方

① 出された意見を確認・整理する。

～、～、～という意見が出ました。

② 出された意見に対するみんなの考えを聞く。（質問でもよい）

係のみんなでがんばる方法はどれがいいと思いますか。

※係のみんなが取り組むのに1番いい方法を選んでもらう。

③ まとめます。※全員納得の場合はOK

意見が割れたら…今月はこれをしてみませんか。（提案する）→納得OK

納得しない人がいたら…今月はどんなことをがんばりたいですか。（提案してもらう）

皆さんどうですか。→納得OK

納得しない人がいたら…では、今月は賛成が多かった～をしてみます。うまく解決し  
なかったら来月～してみましょう。

係のみんなでがんばろうという気持ちを高めましょう。

心得1 係の友達の意見を大切にする。（意見を大切にすることは、その人を大切にする事）

心得2 意見が出ないときは、「～さんはどう思いますか。」と聞いてみましょう。

心得3 それでも意見が出ないときは、「わたしは～と思うのですがどうですか。」と提案し  
てみましょう。

心得4 自分だけががんばっても、係での話し合いはうまくいきません。メンバー全員が意見  
を出しているか。「～さんはどうですか。」と声をかけてみましょう。

心得5 決めることが目的ではありません。みんなが実行できること、できない人がいたら  
係のメンバーでサポートしながらできるようにしてあげることが目的です。

心得6 みんなは1人のために（不安な人や、こまっている人がいたら係のみんなでサポー  
ト）

心得7 1人はみんなのために（自分の役割を果たすことはみんなの役に立つことです）

## 係会議で話し合うこと

### 1 係の仕事の振り返り

- ① 班の仕事について（よかったこと、直したいこと、困っていること、気付いたこと）
- ② 学級の仕事について（よかったこと、直したいこと、困っていること、気付いたこと）
- ③ 係のメンバーの頑張り（〇〇さんが～を手伝ってくれてうれしかったです。）

### 2 直したいこと、困っていることの整理と解決する方法

（1で係のメンバーが直したいと思っていることや困っていることについて係のみんなで解決するアイデアを出してみよう。）

例：生活係

|                           |                                   |
|---------------------------|-----------------------------------|
| ① 給食の準備の時間に座って待っていない人がいる。 | ① 班のメンバーに係から声掛けをする。ちゃんと待てた班を表彰する。 |
|---------------------------|-----------------------------------|

### 3 係の目標を立てる

1ヶ月間、係のみんなで頑張る目標を立てる。

よい目標→ みんなが何をすればいいのかが分かる

例：

|  |
|--|
| <p>◎ 給食の準備時間に、班のメンバーに「座って待とう」と声を掛ける。<br/>         （「いつ、だれに、どのように、なにをする」が分かるようにする）<br/>         ※ できたかどうか分かる、係の人が教えてあげられる（＝サポートできる）<br/>         ▲ 声掛けを頑張る。</p> |
|--|

### 4 朝の活動の計画を立てる

#### ① 何をするか決める。

※係らしい内容を工夫しよう。

| 計画                 | 生活              | 整美                       | 広報                         | 学習               |
|--------------------|-----------------|--------------------------|----------------------------|------------------|
| 王様ジャンケン<br>椅子取りゲーム | 献立当て<br>あいさつゲーム | 雑巾リレー<br>ロッカー整理<br>コンテスト | ゆるキャラ<br>コンクール<br>似顔絵コンクール | 音読リレー<br>漢字筆順クイズ |

#### ② ルールを工夫する

※班の友達と協力・助け合ってできる

※やっている人、見ている人が楽しい

例：献立当てゲーム（机をグループにして座って待つ）

- ① 広報係がくじを引く（くじには「〇月△日の給食のこんだて」と書いてある）30秒
- ② 班のみんなでその日の献立を思い出して書く 5分くらい
- ③ 答え合わせをする 3分
- ④ たくさん思い出せた班の勝ち

#### ③ 準備するもの考える

- ・くじ ・答え合わせ用の献立表 ・ストップウォッチ
- ・記入用紙 ・マジックペン（黒6本、赤2本）

#### ④ 役割分担をする

※準備・活動・全体の係を決める

- 活動： 進行（2人）  
 採点（全員）  
 用具（2人）  
 時計（1人）くじ（1人）

|              |         |
|--------------|---------|
| 朝の活動プログラム    |         |
| 進行           | （1人）    |
| ① 始めの言葉      | （1人）    |
| ② ルール説明      | （2人）    |
| <b>③ 活 動</b> |         |
| ④ 感想発表       | （1人）    |
| ⑤ 先生から       | （〇〇〇先生） |
| ⑥ 終わりの言葉     | （1人）    |

# 係会議の内容

## 1. 自分の役割をふり返る

- ① 班・学級の仕事
- ② よかったこと
- ③ 直したいこと
- ④ こまっていること
- ⑤ がんばっていた友達

など

## 2. 解決の方法を考える

## 3. 係の目標を立てる

## 4. 朝の活動の計画を立てる

# 係会議記録【

# 係】

## 1 係の仕事を振り返って

| 班の仕事 | 学級の仕事 |
|------|-------|
|      |       |

## 2 直したいこと、こまっていることを解決する方法

| 直したいこと、こまっていること | 解決する方法 |
|-----------------|--------|
|                 |        |

## 3 【     】月の係の目標

|  |
|--|
|  |
|--|

## 係からのお願い

|  |
|--|
|  |
|--|

# 朝の活動計画書

マイケル ジョージ  
フレディ カーリー  
サム ローラ  
の6人が考えたよ！

|               |   |   |                                     |
|---------------|---|---|-------------------------------------|
| 広報 係          |   | 11月 9日  |                                     |
| 活動名           | ゆるキャラコンクール  |   |                                     |
| ルール           | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 机をグループにして待つ→用具を配る 30秒</li> <li>② 学級の「ゆるキャラ」を班毎に協力してかく 5分</li> <li>③ 班毎に整美係がゆるキャラを発表する 4分</li> <li>④ 先生にしん査してもらう 1分</li> <li>⑤ 賞を発表する 1分</li> </ul> | <p>活動の流れも考えておくといいね。<br/>ルールの説明では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班毎にゆるキャラを協力してかく</li> <li>・発表をする</li> <li>・先生にしん査してもらう</li> </ul> <p>ことを知らせよう。</p> |                                     |
| 準備物<br>(担当)   | <p>画用紙 (6枚) → ( ローラ ) 係コーナーから<br/>色鉛筆 (6セット) → ( フレディ ) 広報係から借りる<br/>マジックペン8色(6セット)→( ジョージ ) 係コーナーから<br/>賞を考える→( カーリー サム ) 先生にしん査のお願いをする<br/>ストップウォッチ→( マイケル ) 職員室から</p>                    |   |                                     |
| 活動<br>(担当)    | <p>用具を配る ( ローラ ) ( ジョージ )<br/>タイム ( マイケル ) ( フレディ )<br/>進行 ( カーリー ) ( ジョージ )<br/>賞を発表する ( サム ) ( ローラ )</p>  |   | <p>1人の人が2つの仕事をしなくてはいけないこともあります。</p> |
| プログラム<br>(担当) | <p>進行 (サム マイケル)<br/>ルール説明 (カーリー ジョージ)<br/>終わりの言葉 (カーリー)</p>   | <p>始めの言葉 (フレディ)<br/>感想発表リポーター(ローラ)</p>  |                                     |